

むちむちふたなり雌化風俗 ～淫華咲く肉欲の夜～

第1話 まずはたまたまでマッサージ♪

☆巻いたバスタオルの下からでもはっきりと主張する豊満な肉体を悩ましげにくねらせ、浴室を歩み出る紫乃。ベッドの上の「お客様」に、鷹揚に声をかける。

(00:15)

ふう……いいお湯でした。って、あら、すっかりお待たせしてしまいまして、申し訳ございません……ふふ、お客様ったらご緊張でいらっしゃるのね。お行儀よくお座りになって、おかわいらしいこと。私もベッドの上に失礼いたしますね、よい、しょ……と。

☆紫乃は恭しく三つ指をつき、「お客様」に頭を下げるものの、どうにも所作がぎこちない。その原因たる、自らの股に横たわるペニスを、紫乃はタオルをほどいて見せつける。

(01:04)

それでは改めまして、本日は「時間無制限・女の子コース」、ということでお客様への施療を担当させていただきます、紫乃、と申します。なにとぞよろしくお願いいたします……あ、んっ♡ んふふ、まともに頭も下げられない不心得な女で、面目もございませんわ♡ なにぶん、つかえてしまうもので。ほら、身を覆っていた薄布を、はらり、と剥いでしまえば……

(01:58)

ふふふ♡ ねえ、お客様のお買いになった女の肉体……お辞儀をすれば膝にまでつかえてしまう、一山一山が西瓜ほどもあろうかという大きさの真っ白な乳房、それからそれとは反対に、根元から先端に至るまで黒々として丸々肥った、まるでさつまいもを思わせる粗野な肉根……いいえ、お・ち・ん・ぽ♡

☆「お客様」の視線を感じ、吐息を漏らすと、四つ這いで「お客様」に近づく紫乃。しなやかな動き、薄暗い瞳の光はまるで飢えた肉食獣のよう。

(02:47)

はあ、あん……あら、あら、いけませんわお客様♡ おちんちん、もう大きくしようとなさっているのですか♡ 少々お待ちくださいね、いまお客様のお背中の方へ回らせていただきますので、こうして四つ這いでお客様に近づこうとする女の、たゆたゆと弾む乳房♡ その奥でぶらぶら揺れている、ふたなり女の巨根オチンポ♡ 目で追って、たまたま、むずむずしていられしても♡ おちんちん、ぴいーん♡ は少しだけお預け……♡

☆紫乃は「お客様」の背に身体を押し当て、熱っぽく魅力的な提案をする。一息入れて、「お客様」を膝に抱え上げる。

(03:53)

はい、お客様の後ろに参りました♡ 腰の奥が熱くて、疼いて、我慢できないお客様の、ご自慢のお勃起♡ 私が見ていてさしあげましょうね♡ よく見えるように、お身体を抱え上げてしましましょう.....んふふ、私、お肉マラなど生やしているせいか力もそれなりに強くて、ん、っしょ♡ はあい、足を伸ばして、私の太ももの上に座ってしまう感じです♡ そうそう♡

☆「お客様」との密着が強まり、高鳴る鼓動までが互いの身体に響く。自らの女性的魅力を餌に、「お客様」を煽る紫乃。

(04:53)

ふう.....どうですか♡ 身体があったまって、汗ばんで.....お客様のお身体に触れたところから、ぴたぴたとくっつきます♡ 太もも、お腹、二の腕♡ うふふ、おっぱいなんて特に、むぎゅ♡ と押し潰れてしまうせいで.....こりこり、ころころ♡ 一足先に勃起♡ してしまった、恥ずかしい敏感乳首がお客様のお背中を転がって.....♡

☆紫乃は「お客様」のペニスに手を伸ばし、手の平で包み隠してしまう。嘲る言葉を、呪文めいた調子で言い募り、「お客様」を囁し立てる。

(05:58)

ああ、よく見えます、お客様のオチンポ♡ おっぱい押し付けられて、くん、くん、くん♡ と少しずつ頭をお持ち上げになって.....ですけど♡ 腕を伸ばして、両手でオサオの全体を、きゅっ♡ としてしまうと.....おやおや？ お勃起したがりオチンポ様、どこに行かれてしまったのかしら♡ まさか、私の手の平に挟まれてぐにぐにと弄ばれて、くすぐったげに身をよじっている、このちいちゃくて柔らかなお肉の棒が♡ メスの身体の最奥を無遠慮に犯して子種を好き勝手詰め込んでしまうオスの生殖器などと、うふ、ふふふ♡

☆紫乃の話す速度は徐々に上がり、「お客様」のペニスに言い聞かせるような甘美な妄想とも相まって凶暴なまでの勃起を誘う。

(07:31)

さあ、さあ♡ むく、むく、むくっ♡ ああ、オチンポに芯が通る♡ 勃起する♡ 僕のオチンポ強いんだ♡ チンポぶら下げた淫売女なんて所詮ただのマンコ穴だって、おっきくなってわからせてやるんだ♡ オスメスらぶらぶ交尾なんかしたことないけれど、おててでごしごし厳しくシコリ上げて鍛えた.....オチンポ♡ びんっ♡ ゴムでできた偽マンコ穴にへこへこ腰振りキメる百戦錬磨の童貞チンポ♡ びん、びんっ♡ ほら勃起する♡ セックス準備完了しますっ♡ びんっ♡ びんっ♡ びいい〜んっ♡

☆「お客様」の勃起の初々しさをせせら笑う紫乃。言葉ばかりは称赞する風なのが、かえって羞恥をかきたてる。

(08:27)

わあ♡ わああ〜っ♡ オチンポ勃起できて偉いですね〜♡ ほら見てください♡ 精いっぱい大きくなって、私の両手の間からようやくはみ出た真っピンク色の亀さん♡ 新品おちんちんだぞー♡
って偉そうにふんぞり返って、ふふ♡ 皮をかぶせて一生懸命しこしこ♡ して、ここまで立派にお育てになったのかしら♡ おててを離しても、ひとりでまっすぐお勃起♡ 偉あい♡

☆紫乃は「お客様」のペニスから手を離すと、かわりに自らの大きな陰嚢を持ち上げる。むにむにと玉袋を弄びながら、その先に待つ淫感を予期させる。

(09:17)

さてさて、こんなにかっこよくお勃起できるお利口おちんちん♡ 手の平なんかじゃ足りないんだ♡ マンコ穴にハメハメするんだ♡ ってぴくぴく跳ねて.....それでは、ふふ、身体を少し前に倒しますね♡ んっ.....♡ 苦しいかもしれませんが、お勃起そのまま、ですよ♡ はい、私の両手、むっちり太ももの間にさしこんで.....下から掬ってしまいます、おっきなおっきなおキンタマ、あ、んっ♡ 手の平にずしりたぷりとのしかかって、厚めの陰嚢表皮がぶにゅ♡ と弛んでしまう、大変だらしない色黒ザーメン袋です♡

☆紫乃は陰嚢を大きく伸ばし、「お客様」のペニスを両側から挟み込む。途端にペニスの脈動を感じ、紫乃は艶声を漏らす。

(10:42)

ふふ、お客様♡ 目をお離しになってはいけませんよ♡ っはああ.....右タマと左タマにそれぞれふんわり指を添えて♡ 左右に引っ張って、くばあ♡ んひっ♡ キンタマ袋中央の繋ぎ目が汗と脂でぬらぬらと鈍く輝いて、まるできつく閉じた処女マンコ穴の一本筋のようで、オチンポびくうん♡ ああ、そんなかわいらしい様子、見せられてしまっは.....広げた陰嚢肉がきゅんと疼いて、両側からオチンポを、ぱっ、くん♡ んふ、っうう♡ っふふ♡ ねとねとお肉の塊が、チンポをまるごと食べてしまいました、あ、んっ♡

☆硬軟取り混ぜた玄妙な快感に、どちらからともなく切なげな嬌声が上がる。紫乃は完全に主導権を握り、押しつけるような物言いを取り混ぜて「お客様」をしごき上げる。

(12:00)

お客様の、あはっ、オチンポさん♡ せっかくおててマンコからはみ出したのに♡ 大質量のメスキンタマ袋に、根元から先端までぐっぽりと、あうっ♡ 包まれて、またおちんちんな〜いない♡ ふ、ああ♡ 肉厚すぎるタマ皮、ぎゅう♡ と寄せてしま、えば、んうう♡ サオのつるつるした表側も、筋の張った裏側も飲み込むキンタマホルルの完成、っぐっ、で、すう♡

(13:01)

ああ、オチンポ冥利に尽きますねえ♡ 自分のおててやオナホルの感触しか知らなかった、っくうん♡ 童貞オチンポ様が♡ 女の柔らかな手肌に包まれながら、う、んんっ♡ 亀さんがぴーんと持ち上がる様を見せつけて、その上、ふわふわぬとぬと柔らかあいメス陰囊にお勃起サオ食べられてしまって、っは、ああ♡ ずりゅ♡ ずりゅ♡ 愛撫されてしまっている、なんて、んあ、んっ♡ っふふう♡ タマズリ♡ メスキンタマでずりりずり♡ キンタマ童貞、ご卒業おめでとござい、ます、うう、っふっ♡

☆「お客様」の肉竿全体にしっかりと圧力をかけながら摩擦を繰り返す紫乃。鈍い快感に息を深く吐きながらも、「お客様」の昂りを見逃さない。

(14:09)

脂やら汗でべとつく褐色タマ皮に、ねちよりねちより♡ 未使用おサオを汚されて、それでもオチンポびくびくさせっぱなしでっ、えひっ♡ んうう♡ 時折、ぷにゅこりっ♡ とした睾丸の感触にカリ首を弾かれては、っはっ、はあっ♡ あひん♡ とかわいらしい声をお出しになってしまう……っはああん♡

☆紫乃は自らの陰囊をいやらしく形容してみせ、こびへつらうような言葉で「お客様」の雄性を刺激する。

(14:52)

でも、っおうう♡ それもいたしかたございません、わよね、んぐ、うつ……ほおら、ご覧になっ、て、へっ♡ たっぷりおまんじゅうキンタマ、ああっ♡ ふに、ふにと弾む余裕もないくらいに持ち上げてしまうと、おひ、いつ♡ じつとりと肉脂に濡れた皺がたあくさん♡ んふっ、んふ、うつ♡ 何度も何度も濃うい種ミルク満杯に詰め込んで、ぎゅっぎゅ～っ♡ 袋を一生懸命縮めて、びゅっびゅ～っ♡ チンポ穴から大量に吐き出した証拠のタマ皺、びっ……しり刻まれてえ♡

(16:04)

あ、っはっ♡ ねえ……敏感な亀頭粘膜でたっぷりお感じになっていることでしょうね♡ んや、あんっ♡ 私の、き・ん・た・ま♡ はああ……っ♡ ぷくりと厚い肉皺の一つ一つで、お客様のオチンポさん……いいえ、オチンポ様にい♡ オチンポ様あ♡ オチンポ様あ♡ 抱いて♡ 抱いて♡ メスのキンタマ袋、どうか一人前のマンコにしてください♡ ちゅっちゅっちゅっちゅっ、ちゅうう～♡ と、口づけを捧げて媚びてしまっているのですよ、お、んっ♡

☆手指を陰囊に誘導し、紫乃は囁き声で「お客様」の判断を狂わせる。ばかげた台詞で男を手玉に取る悦楽に、思わず忍び笑いが漏れてしまう。

(17:07)

……ほらお客様、おててをお貸しくださいね♡ 紫乃の一抱えもある陰囊、しっかり抱き締めていたただかねば、嫌ですよ♡ あああ、男の人の手の平に、大事な大事な黄ばみお精子工場を預けてしまいます……ん、っ♡ っく、あ、っふふ♡ どうですか、メスのキンタマ袋お♡ きっと……

(17:47)

すごい♡ なんて助平なデブキンタマなんだろう♡ 中にオスクっさいザーメン汁なんか溜め込んでいるくせに、黒ずんだ皮がしっとり優しく指に吸い付いて♡ おまけに、きゅん♡ きゅうん♡ まん丸な睾丸が、タマズリに使ってもらえるのが嬉しいからってメス鳴き痙攣して、んおっ♡ はあ、はあ♡ 僕のキンタマも、ずしっ♡ って重たくなっちゃった♡ そうするとサオも亀頭もますます膨らんで、すごい♡ 僕のオチンポ強いんだ♡ 淫売女のキンタマめちゃくちゃに犯してやるんだ.....ふふっ♡

☆紫乃は間の詰まった口調で考える時間を与えない。淫猥な妄想をますます煽り立て、「お客様」の一挙一動を陰囊への欲求に結びつけてしまう。

(18:51)

なあんて.....あら、オチンポ様、ぴくぴく♡ 凶星ですね♡ 私の言葉を聞いているだけで、ぷくぷく膨れたキンタマがひどく気持ちのよいマンコ穴に思えてきて.....ふうう♡

(19:16)

ほおら、オチンポをいらいらさせる悪〜いでっぶりメス陰囊♡ お客様の正義の童貞オチンポで懲らしめてしましましょう♡ おててでしっかり支えて、あ、うん♡ そう、ですっ♡ 這いつくばらせたデカ尻女の腰をがっしり掴むように♡ ずぼ♡ ずぼ♡ チンポ出し入れしまくって、がくがくイキ痙攣し始めてもマンコ肉ひたすら耕してしまう感じで♡ ああんお客様♡ 私お客様のかっこいいキンタマセンズリ、いいえ♡ キンタマセックス♡ 見たいです♡ さあ、握ったキンタマを上下に.....せえのっ♡

☆ねちっこい口調で、「お客様」が快調に陰囊とまぐわえるよう盛り上げる紫乃。もちろん自分も、強烈な淫感に身悶える。

(20:27)

っくあ、んっ♡ むっちり陰囊の真ん中の、タマ筋、いい♡ お、客様オチンポのぴんっ♡ と張った、あ、あお、お♡ 裏筋にずりずり擦られ、っへひっ♡ こお、睾丸っ♡ ぷりぷりキンタマは、んお、っほお♡ 両側からオチンポ様をちょうどよく圧迫さしあげて、おサオをもみ、もみ♡ 亀頭に、いっ♡ ころ、ころ♡ う、っぐ♡ はああ♡ オチンポびん、びん♡ なさるたびにキンタマとろけるようで、ああ、もうお客様に抱きついてしまわなければ、キンタマセックス耐えられません、んう、う〜っ♡

☆身体をすり寄せたと思うと、紫乃は一転して怪しげな笑みをこぼす。狙いを「お客様」の菊穴に定めて、指を伸ばす。

(21:32)

ふふ、ふっ♡ ちゅぷう.....ん、ぱっ♡ え？ 何、ってえ.....お客様を抱きしめていないほうの腕が空いていますので、中指の先を唾液でぬるりと湿らせて、んじゅるる♡ ぬちゃぬちゃいやらし

い音立ててキンタマ交尾中の股ぐらに潜り込ませて……ん、っふふ♡ 何をされるか、おわかりですか♡ お客様の、ぎゅ〜っと上がり始めてるたまたまの下♡ ちっちゃくつぽんだお尻の穴を、つーんつんっ♡

☆尻穴の刺激に身をよじる「お客様」の反応を受けて、紫乃の声に滲む嗜虐の色が濃くなる。

(22:40)

ん、んうっ♡ ……ふふ、っ♡ キンタマオナホの中で、ぴくんっ♡ オチンポ跳ねてしまいましたね……お尻、つんっ♡ チンポ、びんっ♡ ほらほら、どうなさったんですか♡ セックス止まってますよ♡ セックスしましょうよ♡ セックス♡ お客様のがむしゃらキンタマセックスで、もおっと私をあん♡ あん♡ 鳴かせて……上手にハメハメできたら、お尻穴、つんつん♡ 触ってさしあげますね♡ ほ〜お、らあ♡

☆尻穴の効能をまことしやかに語りながら、身を縮める「お客様」を決して逃がすつもりはない紫乃。暗い笑みを浮かべ、指先の力が強くなっていく。

(23:45)

っひゃ、ああん♡ んふ、ふう♡ ん、っ♡ いいですねえ♡ でっかいキンタマ袋なんて大事に、んう、っふっ♡ 抱えて♡ ちんちんずぼずぼ♡ きもちいキンタマセックス、っうう♡ ふう〜っ♡ よしよし♡ あ、んっ、それではお約束通り、お尻の穴もお♡ なで、なで♡ あっあっ♡ 強おいおちんちんがまた、ぴーんっ♡ っく、うああ♡ どうして♡ どうして僕のおちんちん♡ お尻触られた、だけ、でえ♡ ふ、ううん♡ 大きくなっちゃう、の、お〜っ♡

(24:43)

それ、はねっ♡ お客様がお尻気持ちいい♡ って感じているからなんです♡ お尻が気持ちいいから、触られると、んっ、んお、おっ♡ オチンポおつきくして悦んでしまわれ、ってへえ♡ あ、っふうう♡ ほお、らあ♡ 指先を軽く曲げただけで、くちゅり♡ 柔らかい、感触う……んっ♡ と一緒に、爪の半分開らいまで、こ・う・も・ん♡ 入って、う、んぐっ♡ ふふ、オチンポはあ♡ オチンポは……あ〜♡ ま〜たお尻でお勃起してるう♡

☆紫乃はさらなる肛虐を予感させ、「お客様」の判断力を失わせていく。独善的な言葉が会話の多くを占め始め、声も柔らかながらぞっとする冷たさを孕んでいる。

(25:48)

お尻つんつんされて、くちゃくちゃ弄られ、て、っひっ、ああ♡ っは一つ♡ 次♡ 次はお尻の穴……私の指、咥え、させて、んあ、んは、あっ♡ さしあげます、ねえ♡ だってお客様もうチンポおイきになるでしょう♡ つん、つん♡ で、びいん、びんっ♡ なんだからあ、あ、つくひゅっ♡ お・け・つ・あ・なあ♡ ちゅぶっ♡ なんてスケベな音で指、っひ、いん♡ 入っちゃっ、たらあ……びゅー♡ あ、これでイっちゃイヤですよお、っふ、うう、んっ♡

☆そればかりか紫乃は、「お客様」の耳を舐め始める。多角的な快感が、紫乃の言葉に疑問を覚える心を上書きしていく。

(26:53)

お尻怖い？ ううん、そんな気持ちはダメです♡ 捨てちゃいましょう♡ ちゅぶる、りゅる、ううっ♡
.....んあ、っ♡ びっくりなさいましたか、っは、ああ♡ お客様が間違えたことをお考えになるたびに、んちゅず、っちゅる♡ まっかなお耳から吸い出してさしあげますから、ねえ、っひっ♡ それに、っじゅぶ、れる、んぶっ♡ ほおら、あっ、んん♡ お耳でだって、オチンポびくんっ♡ して、っく、うあ♡

☆紫乃はなし崩しに「お客様」の男の部分を否定し、冷徹に嗤う。自分の言葉だけが真実、それを疑う余地を残さないよう念入りに言葉と愛撫を重ねていく。

(27:58)

お客様は「女の子」になりていらしたんですもの、ちゅう、つぶ、んずるう♡ んあ、っ♡ 背中に押し当てられたおっぱいにも、メス汁びちゃびちゃ大洪水のオマンコにも興味なく、てえ、っちゅぶる、れえる♡ そんなことより、お尻くちや、くちや♡ いじられて、ふあ、んうう♡ ふ、う～っ♡ 勃起したオチンポをお、キンタマ袋に包んでごしごし摩擦するほうが気持ちいいんだから♡ んふ、ふふふう♡ はあ、むう、んずずうう♡ んあっ♡ な～んでっ♡ なんてそんなことが気持ちいいんですか♡

☆雄の否定に留まらず、雌の意識を芽生えさせようと紫乃は「お客様」の耳に囁き声を流し込み、一方で耳介を吸い上げる。

(29:11)

だって.....お客様のお尻穴はあ、お・ま・ん・こ♡ あっ♡ お尻がきゅん♡ って鳴いて指が入っちゃいそうになりましたよ♡ ふふ、うん♡ オマンコ♡ んちゅ、ぷう♡ んあ、オマ、ンコお♡ くちや、れる、ちゅばっ♡ オマンコって呼ばれたくらいでこんなに悦ぶ敏感処女穴、あ、んん♡ お指でつぶつぶひっかかれて、その上オチンポをねっとり肉タマ袋でくるまれて、んちゅ、つぶる、っぱっ♡ ふふ、きもちいに決まってます、ねえ、っ、んぐっ♡

(30:28)

むちゅ、ちゅ、るる♡ ほおら、ほら♡ オマンコでイきましょう、んっ♡ オマンコちゅぶちゅぶイタズラされて、くちゅぶっ♡ オチンポもついでにお漏らし♡ あああ♡ お尻ほじられてオチンポ気持ちいい♡ ああ、んむう、じゅるる♡ お尻ほじられなきゃオチンポぜんぜん気持ちよくない♡ 役に立たない、んうう、っちゅぶ、んずるう♡ んぴちゃっ♡ ほじって♡ ほじって♡ 僕のお尻オマンコ、お指でずぶっ♡ ってほじってオチンポごとイかせてほしいの～、ちゅく、んずず、んるう♡

☆もう耳から入る言葉に従う以外の能力を失った「お客様」を、容赦なく辱める紫乃。今にも笑いだしてしまいそうな声で、必要以上の滑稽な言動を要求する。

(31:34)

だからちゃんと見ててえ♡ ん、うう♡ お指でオマンコほじられちゃった瞬間に、っひ、いい♡ メス射精♡ キンタマおむつにぜえ～んぶ吸い取られちゃうよっわあいメス精子ぴゅー♡ しちゃうからあ、ああむ、っちゅちゅ、るる♡ んぱっ♡ もうオチンポのサオの真ん中までメス精子上がってきてるから♡ すぐにお漏らししちゃうから♡ んあ、っん♡ オマンコほじられてお耳舐められて♡ メスオチンポからクソ雑魚お漏らし、僕ががんばるから♡ だからオチンポ様見ててねえ♡

(32:47)

はあ～い♡ ふふふ、っひ、ひいっ♡ 見ててさしあげますから、メス射精しましょうね♡ ちゅぶる、つくちゅ、ほら、おっきなキンタマ袋で亀さんをすっぽりくるんでお漏らしこぼれないようにして、っぐ、っふう、うんっ♡ ん、あっ♡ はい、イク♡ イク♡ チンポがイきます♡ オマンコほじほじでイきます♡ お耳ちゅうちゅうで、んちゅ、んむ、んじゅるる、んあっ♡ イきます♡ せーのでオマンコに指、入っ、るる♡ んぐ、っふううん♡ オチンポぴゅー♡ するっ♡ せえー、のお♡ ずぶ、ずぶう～～っ♡

☆雌の快感を覚えながら雄で絶頂する背徳を、紫乃は「お客様」の耳元で口にしながら続ける。あくまでも幼子をあやすような調子を崩さない。

(33:56)

……ぴゅうう～～っ♡ どぴゅ、どぴゅ♡ ぴゅるるっ、ぴゅーっ♡ ああ～っ♡ すっごい熱い♡ キンタマ袋がびっくりしてきゅんきゅん震えちゃいます、うう、んっ♡ ……あら、もう止まってしまうんですか♡ ダ・メ、です♡ オマンコ穴につぶっと突き立った指先をくねくね曲げて、お耳を、くちゅ、れるるっ♡ ……っふふ、ぴゅっ♡ 身体じゅうが絶頂していて、どこをいじられても敏感メスオチンポがぴゅっぴゅして、気持ちいい、気持ち、いい～っ……は～い、ぴゅっ♡

☆絶頂を迎えてぼんやりとした「お客様」の意識を、今度は尻穴に誘導する紫乃。軽く耳をくすぐる吐息が甘美な空想をもたらし、「お客様」の思考を蕩かしていくのだった。

(35:20)

んっ、ふふ♡ あの……それでお客様、全身強張らせながらお射精なさるのが心地よいのはよくわかるのですが、お尻の穴でそんなに指を締め付けられると、少々痛うございますわ……はい、ゆっくり息をして、肛門括約筋の力を抜きましょうね♡ すう……ふう～♡ ん、うっ♡

(36:11)

抜けました♡ ほらご覧になって♡ 私の指先、お客様のオマンコにぎゅ～♡ っとくわえられて、真っ赤になってしまいました♡ あら？ せっかく指が抜けたのに、お尻が全然落ち着かない♡ 少しだけ広がってしまった肛門穴が、ふう……♡ 空気に撫でられるだけで、むず、むず♡ 何を考えていらっしゃるのかしら♡ くっぱり開いたお尻の真ん中に、真っ赤で、熱くて、膨らんで、硬い……お指、じゃないですよ♡ じゃあ、なあに……ふふ♡

第2話 処女をいただいてしましましょうね♪

☆紫乃はいまだ荒く息をつく「お客様」の手に手を優しく添える。落ち着いた声ながらも言葉の淫らさは変わらず、身をくねくねとすり寄せる。

(00:00)

ふふ、ですがその前に……お客様の、この手♡ 絶頂の波が過ぎ去っても、亀頭粘膜に肉厚のタマ袋をむぎゅむぎゅ♡ と擦りつけてやまない、いやらしいおててをなんとかせねばなりません♡ 手の甲ごと、私の手で包みこんでしましましょうか……ぎゅ♡

☆自らの陰嚢にまとわりついた「お客様」の精液を辱める紫乃。にたついた声の調子が、羞恥を際立たせる。

(00:44)

では、では♡ おてての力を緩めて……陰嚢オナホールを、くばあ♡ あら～♡ これが、お客様のちいちゃな睾丸お二つが、私のどでかいキンタマ袋に欲情してどくどくと生産なされたオス種汁なのですね♡ 色なんて真っ白どころか、ところどころ半透明で♡ タマ袋の皺にほとんど吸い取られてしまっているような、程よい量……2、3ミリリットルがせいぜいというところかしら♡ 臭いは……すん、すん♡ んっ♡ 汗蒸れのメス陰嚢の濃厚な香りこそ漂えど、精液特有の栗の花の臭いもほとんどなく……♡

☆紫乃は少しずつ漲っていく自らのペニスを見て、舌を舐めずる。同時に身じろぎする「お客様」の様子を目敏く感じ取って、性感をなぞり上げていく。

(02:11)

あっ、ああ～♡ お客様、大変です♡ 雑魚お精子を塗りつけられた屈辱で♡ 役立たずお睾丸ぶら下げたオスもどきに、自分のオス臭むわむわキンタマを性処理に使われてしまったせいで♡ んじゅ、るる♡ どす黒いオチンポ肉棒が、むくっ♡ むくっ♡ ん、っ♡ お客様も、むずむずしていらしたんじゃないかしら♡ 心臓がばくばく♡ お尻の穴、ひく、ひく♡ ふう～……ひく、ひくひくひく♡

☆唐突に問いかけ、「お客様」に尻穴を捧げる決断をさせてしまう紫乃。慈愛に満ちた声で、その先に待つ破滅を巧妙に覆い隠す。

(03:14)

……それで♡ 初めてはやっぱり、お顔を見ながらがいいですよ♡ うふふ、難しくお考えになる必要はありません♡ ただ、首を縦にお振りになって♡ 馬並みふたなり黒チンポで、お尻の穴の処女を散らしてしまいたい♡ チンポでケツ穴ごりごり広げて、処女じゃなくなっちゃったメス顔しっかり見てほしいんだ♡ 掘って♡ 掘って♡ ケツ穴ずぼずぼ掘って♡ 僕、オチンポ欲しくて

肛門ひくひくさせちゃう変態さんなの♡ だから掘ってください♡ 僕のお、変態♡ 処女♡ け・つ・ま・ん・こ♡

☆紫乃は微笑みながら、自らの睾丸の疼きを隠す素振りもない。むずむずと落ち着かない腰を抑え、次の体勢を整える。

(04:33)

.....はあ〜い♡ お顔を見つめあいながら、ケツ穴掘り掘りしましょうね♡ もうお尻のひくひくも止まらないですね♡ それではキンタマをゆっくり下ろして.....はあ、んっ♡ つふふ、膝からお降りになってくだ、さい、んう♡ 少しお急ぎにならないと、むくむく起き上がる太おい肉マラに通せんぼされてしまいますよ.....そう。そうです、それでは私に、振り返ってお顔を見せてえ.....♡

☆「お客様」の締まりのない表情を目にして、紫乃は口角を上げる。同時に剛直も膨れ上がり、声に熱っぽい色が混じる。

(05:34)

ああ、お客様♡ これが、一時の快樂のためにケツ穴をマンコにになってしまう変態さんのお顔なのです、ね、んっ、ふああ♡ お口もほっぺたもとろけそうなほどにだらしく緩んで、おめめなんて肉欲にどんより濁って♡ あっ、あっああ♡ きま、したあ.....チンポの芯をどくどくとオス欲が登っ、てへえ♡ むく、むく.....びいーん♡ 中太肉マラ、フル、勃起い♡ あら、あら♡ お客様、そんなに目を輝かせて♡ ばきばきデカチンポに、んう♡ マンコ穴と認識されたのが嬉しいですか♡ 嬉しいですねえ、うん、んっ♡

☆ぼんやりした「お客様」の目の前に、卑猥な形に組んだ指を示し、声を弾ませる紫乃。一挙一動を尻穴の快樂に結びつける言動が、「お客様」を惑わす。

(06:59)

です、けれども、ん、っほっ♡ このように指も回らぬほど太おいオチンポ肉が、お客様の処女ケツ穴にいきなり入るわけがありませんから♡ あ、んう♡ まずはこれ.....ふふっ♡ 手を組んで両方の人差し指だけ立てた、いわゆる、カンチョーです♡ あら、ただ結んだ手指を見て、太もももじもじ♡その奥のお尻穴なんて、うずうず、もう止まらないのですよね♡ 指一本でひいひい言っていたケツ穴が、二本、三本と広がって行って.....最後にはオチンポでないと満足できない♡ お客様もそうなります、必ず♡

☆紫乃は「お客様」の体重を支える体勢になり、組んだ手を差し出す。不安定な姿勢が「お客様」の心中を乱し、ますます紫乃への依存が強まる。

(08:08)

それでは、お客様は私の肩に手を置いて立っていただいて、そう、それでどんどん腰を下ろして.....いえいえ、膝はもっと開いていただきますんと♡ すっかり萎えたふにやふにやオチンポ、私

に見せびらかすように、です♡ ん、っふふ♡ おちんちんがぷらぷら揺れて、だんだん下がって……体重を半分ぐらい私に預けて、つま先立ちでしゃがむような姿勢になってしまいました♡ なかなか安定しなくて、お尻がふらふらしてしまうと思いますけれど……そのお尻の下に、腕を伸ばしてカンチョーのお指を置きますね♡

☆指先から伝わる「お客様」の熱に感嘆する紫乃。うっとり息を吐き、指で不規則な脈動を味わう。

(09:18)

そう、お客様自ら、この指の上に腰を下ろしていただきます♡ お尻がだんだん下がって……あら、お上手♡ そうそうそこですわ、お尻穴が指先のちょうど上に来て、ぴとっ♡ わあ♡ お客様の小さくすぼんだ肛門♡ 熱くて、生き物のように盛り上がったり縮んだり……♡

☆紫乃は児戯じみた悪趣味な言動で、「お客様」の腸内に指を挿入する。表情すら満足にコントロールできない「お客様」を、笑みながら当てこする。

(09:59)

ほおら♡ くちゅくちゅくちゅ♡ あ、っくう♡ お客様の大事なお尻にこのようにイタズラしてしまう悪い指先は、きつきつアナル穴に閉じ込めて罰を与えなければなりませんね♡ 息をゆっくり吐いて、ふう……すると、あらふしぎ♡ とっても硬い肛門括約筋がふにゃふにゃ♡ 触り心地のよさそうな穴に誘われて締まった指先、ずぶ……ずぶずぶ……すう、ふう……ずぶ、ずぶぶっ♡

(10:54)

あ、うんっ♡ まあ、それが、お指二本を根元まで肛門穴に飲みこんでしまわれた変態メスさんのお顔なのですね♡ おでこまでまっかっかに茹だって、深呼吸のリズムは、ひっ♡ へひいっ♡ んふーっ♡ なんて、めちゃくちゃ、ふふっ♡

☆明るい声に威圧をにじませ、脅迫にすら思える物言いで、紫乃は性交に適した肛門を急速に育てていく。

(11:30)

んふ、それで、入れたら次は……そうですね♡ お尻を浮かせて、指を抜きましょう♡ 関節にアナル肉ぬち♡ ぬち♡ 引っかかって、ずるずる肛門粘膜はみ出てしまいますね♡ はい、もう一度指を飲みこんで……今度は吐き出して……ずぷふう……ぬぼ、ぬぼ♡ よい調子です、どんどんケツ口が物を出し入れする淫ら穴に変わっていきますよ♡ ずぶ～……ぬっ、ぬっ、ぬっ♡ 私の肉マラを見つめる目もどんどんぎらついて、口からよだれが垂れ流し♡ ケツマン掘り掘りのときも、同じようにしていただくことになりますからね♡

☆紫乃は尻穴に複雑な刺激を加えて、「お客様」の羞恥を膨らませる。すでに後穴の中毒性に染まりつつある「お客様」を、一見慈悲深い声で揶揄する。

(12:41)

ほおら、こうして、抜けかけた指先だけをお尻の中に残して.....左右両側に、ぽかーっ♡ うふふ、お膝ががくがくして♡ 肛門穴ぽかって開くのも、気持ちいいですね♡ ピンク色のぬるぬるしたお肉が、生ぬるい空気に撫でられてすーすーして落ち着かない♡ お尻穴がぽっかり開いたままだと、なんだか寂しい気分で胸がいっぱい.....はあい、また奥まで、ずぶぶっ♡ よかったですね、お腹の中を他人の指で埋めてもらうの、安心するでしょう♡

☆まさしくおもちゃのように「お客様」の後穴を弄ぶ紫乃。準備がとうにできていることを、言葉で、ペニスで如実に伝える。

(13:39)

でも、そんなことで安心なされてしまって、よろしいのですか♡ この指はとっても意地悪でえ.....今度は、根元まで入った指の全部を、ぐぐぐ.....ぽっかぁ♡ ふふ、入り口から直腸まで広げてしまうと、こうして指先をくねくねとうねらせても足りるほど、お客様のお尻、とっても広おい、ですわ♡ そうして、指二本の間に空いた隙間に、今度は中指♡ おじゃましまあす♡ うふふ♡ 狭いせまあい未使用アナルが、四本も指をくわえこんだ淫乱メス穴に早変わり♡

(14:44)

当然、中指も、みち、みちみち.....ぐぱっ♡ あらあら、あんなに小さなまんまる穴だったのに、真四角に押し広げられて、歪められて♡ ふふ、ところで.....指が三本入れば、勃起オチンポ受け入れるに不足のないマンコ穴♡ と言えるそうですが♡ それだけのものをおケツ穴でくわえながら、チンポ生やした女と話していらっしゃるんですよ、お客様ぁ♡ ん、ううん♡ つふふ♡ 私の凶悪極太肉槍、っ♡ 熟れきっているくせに未使用のマンコ穴の香りを嗅ぎ取って♡ 食わせろ♡ 食わせろ♡ と亀頭を跳ね上げて身勝手お勃起♡

☆嗜虐的な笑みを浮かべながら指を引き抜く紫乃。ぬめった指先で「お客様」を優しく抱きとめ、裏腹に猛々しく漲ったペニスで狙いを定める。

(15:50)

んう、つふふ♡ うふっ、ケツは熱いうちに掘れ♡ とお申しますし、ん、んっ♡ お尻をゆっくり慣らしながら♡ というのも私の、っひ、うん♡ ぷくぷく肥大睾丸がきゅんきゅん疼いて耐えられそうにございませんで.....っはあ、はあ、あ♡ このまま力ずくで指、抜いてさしあげますね♡ はい、待ちません♡ 一気に、ずぬ、りゅりゅっ♡

(16:29)

ああ♡ ああ♡ お尻に何も入ってないよお♡ ぽっかりアナルがさみしいよお♡ んふふ、う、つくっ♡ ほおら、お客様♡ ここですよ♡ お客様のゆるゆるおケツ穴、もおっとがばがばオマンコに変えて差し上げるチンポ女の紫乃はここでございます♡ ふわふわ柔らかいお胸に飛び込んでいらして♡ あ、んっ♡ んう、よい子♡ よい子♡ こうして抱きしめてしまえば、もはや逃げ出すことは叶

わず♡ は、あ、っう♡ 身体はくっついていても、お尻だけがぷりん♡ と突き出してゆらゆら揺れて♡

☆焼けつくような暗い倒錯を、もはや呪いじみた紫乃の囁き声が甘ったるく煽る。淫猥な水音がさらに間を埋め、鋭い肉感と相まって脳を麻痺させる。

(17:29)

ふふ♡ お探し物は、こちらかしら♡あ♡ ああ♡ これ♡ これだ♡ 僕これが欲しいんだ♡ 指なんかじゃおケツマンコ満足できないんだ♡ ねとねとふわふわの直腸肉で、びきびきがちがちのオチンポ、根元まで食べちゃいた、い、んだあ、あう、っん、つくう♡

☆肉棒が肛肉に埋まっていくたびに、嬌声が痛切な響きを帯びてこぼれる。紫乃は柔らかく「お客様」の背を撫でおろしながら、短く詰まった息を断続的に吐き出す。

(18:05)

いいですよ、食べちゃいましょう♡ ああ、っはっ♡ んう、う♡ ほら、そうやって、うー♡ うー♡ って苦しうになさると、んんっ♡ せっかくばかー♡ っと開いたお尻マンコ、力が入って、っへえ♡ っふ、うっ♡ 締まりますっ、からあ、んぐっ♡ はあ〜♡ はあ〜♡ ゆっくり吐いて、おし、りい♡ ゆるゆる、ふわふわ、んあ、っふう♡

(18:55)

ああ、熱い、亀頭、っ♡ 肛門のあったかお肉にちゅぶちゅぶ食べ、られえ、んうーっ♡ うあ、んっ♡ ほお、らあ♡ いちばんきついところ、おん♡ ぱんぱんに膨れたカリ、くびい、っひっ、っぐ♡ ふ、うう♡ お尻がんばれ、がん、ばれっ♡ ひあ、ああ♡ がんばって色の濃いケツ肉はみ出させて、亀頭粘膜、に、んは、あう♡ ぬう、ぬちゃぬちゃ吸いついて.....っはああ♡ あ、あっ♡ 尖ったカリエラ、マンコ肉、う、うう♡ 埋まっちゃって、ずぶ、う、っふうう〜っ♡

☆カリ首を越えれば、さしたる抵抗もできない腸粘膜の中を掘り進んでいくペニス。紫乃はちらちらと目を流し、余裕のない「お客様」の表情を確かめて微かに笑う。

(20:04)

はあ、あ、っん♡ ああ、素晴らしいですお客様、あ.....っうう♡ 初めてでいらっしゃるのに、私のあつあつ勃起亀頭♡ しっかり、んんっ♡ ケツ穴にお収めに、なっ、でへっ、ええ♡ そう、っ、ですね、苦し、ひっ♡ ですよ♡ 肛門だけでなく、その、奥、ううん♡ ぬるぬるうねる直腸、ふふ、うっ♡ 抵抗もできないゆるゆるお肉、んあ、っはあ♡ なのに、極太チンポにこじ開けられる感覚だけはしっかりあって、息が詰まって、苦しくて.....でも、まだ奥に進んでいきますよ、っお、ほっ♡

(21:20)

よし、よし♡ あともう少して、チンポ、全部っ、んうう♡ 入りますからね♡ ふふ、ふ、つく、ふうん♡ びきびきと青筋の立った肉竿、だっ、てへえ♡ まくれ上がったカリ首で拡張済みのマンコ穴な

ら、ん……うぐっ♡ ずぶ♡ ずぶずぶ♡ っはっ、はあ、あっ♡ っは一つ♡ どんどん飲みこんで、さっ、さあ♡ 最後は一気に、ふう～♡ って息吐きながら、チンポが根元まで入ります、う、んっ♡ せ、えの、ふう、う、うう～♡

☆埋め尽くされた尻穴の感覚に朦朧とする「お客様」をかき撫で、慈愛深く微笑む紫乃。比較的楽な姿勢を取らせ、身体を密着させる。

(22:24)

はあ、っあ、ああ……～っ♡ ほんとう、にい♡ よおくおできになりました♡ 直接は見えなくても、ふふふ♡ お・ま・ん・こ♡ の感触でおわかりになります、ね、うぐ、っひっ♡ 紫乃の雄々しいメスチンポ♡ お客様の女々しいオスマンコ♡ ……セックス♡ 処女喪失♡ 極太オチンポ♡ きつきつ逆アナル♡ 中出し確定生ハメ交尾い……♡ おめでとうございます♡

(23:26)

……ぼーっとして何もお考えになれませんか♡ では、いきなり動きはせずに……ほら、脚を私の腰にお回しになって♡ ん、っ♡ そうです♡ 楽な体勢で、力を抜いて、深くゆっくり呼吸して……

☆紫乃と「お客様」は深い呼吸を共にし、同時にペニスと直腸の肉も強く絡みついていく。しかし、紫乃の腰には不穏な熱が灯り始めていた。

(23:56)

ふう……すう♡ お尻に意識を集中なされると、ああ♡ こんなに深く、オチンポが入ってしまっているんだ♡ すう……そうですよ♡ あんなに大きな肉マラが、ぜえんぶお客様のケツ穴の中に、ずっぽり……ふう～♡ あ、んっ♡ いい、ですね♡ 自分の意思では動かせないお肉なのに♡ っす、うう……僕はもう立派なオマンコなんだ♡ オマンコだからこのおっきいオチンポ気持ちよくしてあげるんだ、って、え、ひっ♡ 肉竿全体ににちゃにちゃぐちゃぐちゃ♡ 絡みついで、へえ♡

☆「お客様」を裏切るように、一層大きく隆起する紫乃のペニス。紫乃は「お客様」の悲痛な表情にも睾丸を疼かせ、上気した笑みを返す。

(25:18)

っすー……ふう♡ んっ、ふうっ♡ ふっ、うう♡ そ、そんなにも愛しげに私の、っお、っほっ♡ あっあっデカマラ抱きしめられてしまう、と、ほお♡ ふう、う……あ、あらあらっ♡ みち♡ みちみち、みっちゃん♡ すでに一抱えほどもあったぶっついオチンポが、んあ、あう、っふふ♡ またまた、ばき♡ ばき♡ と猛々しく身を膨らませて、反り返り始めまし、た……っう♡ キツ、いい♡ お客様の未使用直腸粘膜、っ♡ いささか狭すぎ、っひい♡ のでえ♡ 広げ散らかしてさしあげますね♡

☆ふわりと抱き留めていた紫乃の腕が今度は檻になって、「お客様」を疼痛交じりの快感に沈める。紫乃は諭すような口調で、落ち着いた声で暴論を連ねる。

(26:45)

ふふふ、っう、うん♡ ダメ、ですよ♡ お逃げになろうとお身体をよじられたって、んふ、うっぐっ♡ んは、あっ♡ マンコ肉が程よく締まって、私の亀頭をくちゃくちゃ愛撫……っ♡ してくださる、うっ♡ だけ、っひ、ひひい♡ 私がぎゅう♡ と抱きしめてさしあげている限り♡ ケツ穴あ、んう、っほ、おう♡ めいっぱい広げて、直腸マンコを、っお、おっお♡ うあ、んっ♡ まあっすぐに貫いてさしあげている限りい……♡ っふ、ふうっ♡ お客様と私は合体♡ ハメハメ♡ し続けるのです、わ、ああん♡

☆突然のできごとに早鐘を打つ「お客様」をそのままに、紫乃は情交の体勢を整えてしまう。薄暗い笑みで荒く嬌声を上げる。

(27:56)

は、ああ～っ♡ やっぱりチンポは、うう、っぐっ♡ マンコ穴にぐちょぐちょとおサオを擦りつけながら勃起させるに限り、ますわね、っあ、っへ、えっ♡ その、上っ♡ ふ、っふふ♡ お客様を抱きしめる手をほどいて……左右のおてで、お客様のむっちり張ったお尻たぶを、がしっ♡ んおっお♡ おう、っ♡ キた♡ お、おっ♡ キました♡ ケツ肉わし掴み、でっ、っほほお♡ チンポ全体がぶるん♡ ほ、おっ～っ……レイプがキました、っう、っほ、おっお♡

☆尻穴に向けての抽送が始まる。紫乃は「お客様」の臀部をしっかりと掴んで上下に動かし、深いところを行き来するペニスに満足げに息を漏らす。

(29:06)

では、あ、んっ♡ ご奉仕、レ・イ・ブ♡ 始めさせていただきます、ね、うお、っほっ♡ んっんっ、んうう♡ ふふ、ふうう♡ こうしてお膝に抱え上げてさしあげてのレイプです、からっ♡ あ、あう、っく♡ チンポ肉とケツマンコ肉、っぐ、っふ♡ ふ、うう～んっ♡ 隙間なくぴたりとくっついて、勃起しきった敏感肉、マラ、あああ♡ 粘、膜う♡ 表から裏からちゅばちゅば吸われて、まったくこの、おう、っ♡ 淫乱処女ケツマンコときたら……あ、っふう♡

☆身勝手な言葉を連ねながら、肛門性交の暴力的な快感で一方向的に「お客様」に従わせる紫乃。ペニスは一層膨れ上がり、「お客様」の尻膣で淫猥な音を立てる。

(30:12)

んっ、ふふ、っおっ♡ ほおら、お部屋に響いてしまっていますわ、っは、んぐっ♡ っふ、うう♡ お客様のっ、ケツ穴、っふふ♡ にちゃ♡ にちゃ♡ ぐちゃ♡ ぐちゃ♡ 鳴る音♡ ひとりでに濡れるはずもない肛門、がっ♡ 腸液をたあっぷりまとった直腸肉をぬるぬるはみ出させて発情♡ きゅうん♡ きゅんっ♡ っふ、うう、んん～っ♡ オチンポ様♡ オチンポ様掘って♡ 掘って♡ と媚びて私のマラ竿にケツひだを絡みつかせる、んお、おっ、音お♡ 太すぎチンポでレイプ♡ されてしまっているのに、っひっ♡

☆紫乃はにやついた唇を「お客様」の耳に押しつけ、濡れた舌で舐め回す。「お客様」が身をよじろうと、巻き付いた腕が逃げることを許さない。

(31:11)

お、うう♡ おんなじ、音がっ♡ おケツ穴だけでなくお腹の中でも、ぐちゃ、ぐちゃ、ああ♡ つあ、うお、っほお♡ んほ、うっ♡ ふふふ♡ ピンク色で、ケツ汁絡んだケツマンコ肉、うう♡ 赤黒亀頭にぬちゅ♡ ぬちゅ♡ こんな音かしらあ……れる、んじゅう、ちゅこ、くちゅぷう♡ んあ、っふふ♡ お客様のお尻オマンコが、オチンポにレイプされて嬉しいよ♡ って鳴く声♡ ちゃんとお聞きになっ、てへえ♡

☆ペニスにばかり都合のいい「真実」を、紫乃は「お客様」の耳に次々流し込む。不安定な抑揚とは反対に、一定のリズムで尻穴を掘削し続ける。

(32:20)

ほお、らあ♡ つはっ、はあ、あっ♡ おケツ穴だけでなく、お客様だって、んちゅ、んむちゅ、つぶう♡ 極太オチンポのずぼずぼレイプ♡ ケツマンごりごり広げられて苦しいはずなのに、むちゅ、くちゅる、れろおん♡ いいのお♡ オチンポセックス気持ちいいのお♡ おねがいおねがい、んん、う、っくう♡ 僕のお尻マンコ穴♡ オチンポ様の好きにして、っひひ♡

(33:10)

はむ、んちゅ、んずずう♡ きつきつ直腸穴、ぶっとい肉サオの形にぐぼ、ぐぼ、っう、おお♡ 広げてくださ、いひいっ♡ んふ、うう♡ 熱いケツひだ粘膜でちんちんずりずり擦っ、でっ、んむ、んう、ぐちゅるっ♡ つは一つ♡ 交尾しすぎてがばがばになっちゃって♡ んちゅぷ、れる、ちゅば、つはあっ♡ もうオチンポ気持ちよくないからケツマンコ意味ないからって、っへえ♡ ぼろ雑巾みたいに僕を使い捨てにして、くら、しゃひいい♡

☆紫乃はもはや我が物顔で「お客様」の肉体を弄ぶ。赤熱したペニスの先から先汁が噴き出す感覚に歓喜する。

(34:10)

うふ、っふふ♡ こんなに勝手なこと、おっ♡ 言われて、うあ、ああ♡ いて、も……ん、っふう♡ がっしり掴んだケツのお肉、むに、むにい♡ ん、んん～っ♡ 揉んで差し上げると、ぎゅ、ううう♡ つほ、おお、おっ♡ つられてケツマンコ肉、動い、てへえ、っひっ♡ チンポ搾るみたいに吸い上げちゃうんです、ものお♡ ふお、お、うう♡ ち、チンポの先、つぽ、っほお♡ ちゅーちゅー♡ されて、うううう♡ あっついカウパー、ぴゅっ♡ ぴゅっ♡ ぴゅうう♡

☆耳介を舌が這い回る音を、耳穴を舌先が犯す音を「お客様」の脳に刻み込む紫乃。「お客様」の敏感な反応を確かめ、満足げに笑む。

(35:06)

は、っああ♡ 言うなればこれはあ、合法レイプ♡ つふふう、ちゆく、むちゅ、じゅる、れるる♡
ねえ♡ だって、う、んん♡ つふふ、お客様が望まれたことですものねえ♡ あ、っう♡ んむ
るう、っちゅふ、つぶああ♡ お店の女の子の中から、ひときわ……うあ、は、っ♡ つふ、太おいチン
ポぶら下げてそうな女を選ん、だのもお♡ その極太メスチンポ♡ でえ、ぢゅ、ぢゅぢゅ、んるる♡
♡ 未使用ケツマン掘って掘って♡ って頭の足りないマンコ穴アピールなさったのも、んお、お
う、っふう♡

(36:16)

くちゅ、んぢゅふう♡ つは、あーっ♡ ケツマンコ、のっ、中でえ♡ みぢっ、みぢっ♡ オチンポ元氣
にフル勃起っ、んああ、んむ、れるる♡ それどころか、っあ、っぐっ♡ お尻までわし掴みにして、
マンコひだににちゃにちゃ我慢汁塗りつけて、んぢゅ、ちゅ、っふ、るる♡ ずぼずぼレイプで♡ オ
マンコ所有権アピール♡ なんてされてしまっていて、もお、んっほお♡ ずっとずっと、とろマン
きゅんきゅんきゅん♡ マンコ穴のメス疼きが止まらない♡ それがお客様なんですよお、っふ
ふ、うぐ、うう♡

☆嘘にまみれた囁きで、「お客様」に屈辱的な姿勢を強いる紫乃。より不安定な体勢が結びつき
を強め、互いの性器がひときわ強く脈打つ。

(37:21)

はしたなくきゅん、きゅん、んん、っぐ、うう♡ マンコ肉うごめかせてしまわれるほど♡ 紫乃のオ
チンポを抱きしめていたい♡ もっと直腸マンコえぐってぐずぐずに壊してほしい♡ ……でしたら♡
逃げられなくしてしまえばよいのです♡ だらんと伸ばされたお客様の脚、私のムチ尻に巻きつ
けて、足首を引っかけて固定♡ ケツ穴にぶち込まれたチンポなんかでお身体を支えるような、い
やらしい、恥ずかしい姿勢になってしまいますけれど、ふふ♡ オチンポ交尾には代えられません
もの、ね♡

☆より深くをえぐる抽送に、紫乃は詰まった息を漏らす。睾丸の中で煮えたぎる獣欲に合わせ
て、声も紫乃に似つかわしくない鋭さを帯び始める。

(38:23)

ん、っぐっ♡ ふふ、ふう♡ おやおや♡ ケツの穴でチンポくわえるだけでは飽き足らず、うう♡
全身でチンポ女を逃がさぬように抱きつかれて……逃げられないのは、どちらかしら♡ う、んっ♡
うんっ♡ うう、んっ♡ っぐ、ううん♡ う、うう♡ 深いっ♡ ケツ持ち上げ、っでえ♡ 叩きつけっ、
るう♡ つふうう〜っ♡ ケツマンコ奥の、おく、までっ、レイプう♡ うう、うお♡ はああケツ穴ガン掘り
レイプでキンタマ、ああ♡ キン、タマ煮えくり返、りゅうう♡

(39:29)

っはっ、は、ああ♡ お客様っ、たらあ♡ 足っ、で、んあっ♡ しっかり私の腰を抱えて、だいしゅき
ホールド♡ だなんて、んん♡ わかっていらっしやるんです、か、うんっ♡ チンポだいしゅき♡
レイプだいしゅき♡ キンタマの中のくっさあいお精子のこと考えただけでオマンコからよだれだら

だら止まらないのお♡ 掘って♡ 犯して♡ ぱんぱん♡ ずんずん♡ あひい～ん♡ なんてことで
頭いっぱい、っふう、んぐっ♡ 女の子お♡ だけに許された、あ、っぎっ♡ オマンコポーズなん
ですよ♡

☆ふいに甘く抑揚たっぷりな声を織り交ぜ、それとは裏腹に尊厳を傷つける言葉で「お客様」を意
のままに動かす紫乃。

(40:20)

女の子♡ お客、様は、あ、んんっ♡ 女の、子お♡ ふう、んっ、んうっ♡ チンポだいしゅきな変態
の女の子♡ っぐ、でかすぎチンポに処女ケツマンコめくれてはみ出るほど激しくレイプされて背
筋ぞくぞくしてしまう変態でマゾの女の子、っほ、おお～んっ♡ っふふ、ねえ♡ 頭の中なんかオマ
ンコきもちい♡ オマンコきもちい♡ オマンコきもちい♡ ああ～そうですねオマンコきもちいで
すねえ♡ もうお客様のケツ穴完全にオマンコですものねえ♡ チンポ入れるときもちいもんねえ、
うう、んぐ、っくう♡

☆と思うと紫乃は、ふいに静かな声で「お客様」の耳をくすぐる。「中出し」の四文字ばかりを繰り返
し、「お客様」の震えをつぶさに感じ取る。

(41:24)

.....で、もお♡ 女の子には♡ 女の子の、メスのマンコ穴には、っふふ、うん♡ まだ足りない
ものがございませう♡ それはあ.....な・か・だ・し♡中出し♡ 中出し～.....♡ あら
あら、っあ、やん♡ どうしてオマンコ、きゅんきゅ、ん、っふっ♡ していっらっしゃるのかしら♡ 中出
し♡ ふふ、ふう♡ 中出し♡ 中出し.....♡ ふう～.....♡

☆紫乃はすぐ後に控える、射精という現象を、区切りのない文でねちっこく説明する。ぬちゃぬ
ちゃと鳴る水音を伴奏に、紫乃の言う通りにペニスが膨れ上がっていく。

(42:20)

いちばん奥までずぶっ♡ って突かれて、マンコ肉♡ マンコ穴♡ ぎゅう～♡ ってめいっぱい引
きつついてしまう♡ するとすかさず、極太オチンポがエグいカリ首みぢ.....っ♡ っと膨らま
せて、ぬるぬる滑るケツひだにしっかり赤黒いカリのエラ引っかけて♡ ズル剥け亀頭粘膜でぬ
ちゃぬちゃマンコ粘膜の感触を確かめながら、サオの内側♡ 根元から尿道穴の中を、どくどくど
くどく♡ 脈打つキンタマ袋から直通で上がってきた特濃白濁精液があ.....♡

☆端々に凶暴な本性をむきだしにし、露骨なまでの獣欲を言葉にする紫乃。溢れる唾液を舐め
取り、「お客様」の尻肉に指を食いこませ、耳を食んでとやりたい放題。

(43:12)

チンポの穴から、ぶりゅ♡ どぶ♡ ぶりぶりぶり♡ 尿道が詰まるような、ところどころ塊になった
ような種汁が、汚い音で、ぶりゅぶりゅぶりゅ、うう♡ っちゅぐ、ぷちゅ、ずじゅるう♡ あああ♡ 焼

ける♡ ケツマンコやけどする♡ もう出さないで♡ あつうい種♡ くさあいオス汁♡ 濃ゆういザーメン♡ ん、っぐう♡ もう狭あいケツマンコいっぱいだからあ♡

(43:52)

ふ、っふふ♡ 嫌です♡ お客様の腰の下の、んんっ♡ まんまるでぶでぶキンタマあ、ん、っむ、くちゅ、るるっ♡ んあ♡ ぽよぽよ柔らかいの、つくひ、あっ♡ 中身はごっ……てり脂ぎった睾丸精子ミルク、たあっぶり召し上が、れ、っえ、ひい♡ むちゅ、んぢゅ、うう♡ マンコ肉のいちばん奥に押し付けて、ぶりゅ♡ ぶりゅ♡ ふ、うう～っ♡ あ、ああ♡ 止まらない♡ 止まらない♡ デブキンタマ袋空っぽにするまでチンポのどくどく止まらな、っひひっ♡ あー♡ あー♡ ケツ穴溢れちゃったあ、あむ、うう♡

☆紫乃は耳から唇を離すと、「お客様」の蕩けた顔の前に顔を突き合わせる。紫乃の顔はといえば喜悦一色で、声に滲む嗜虐の色とは対照的。

(44:56)

っぢゅ、っぱああ♡ ……なあって、ふふ♡ お約束どおり、お顔♡ 見えてさしあげます、っん♡ 今申し上げたように、お客様が私のチンポで♡ ケツ掘り交尾で♡ ぶりぶり中出しで♡ 墮ちてしまわれる、っぐ、うあ、っはあ、はああ……ところお♡ っは、あっ♡ ただのチンポケースに♡ キンタマ汁拭き肉ティッシュに♡ ケツ穴生オナホールに♡ ただ……一匹、のお♡ メスマンコ、にっ♡

☆その言葉を契機に、絶頂に向けて駆け上がる苛烈な抽送運動が始まる。切々とした息遣いばかりが聞こえ、紫乃の自分勝手な言葉さえ途切れ途切れになる。

(45:53)

んお、おっ♡ っう、うう♡ んっ、ん、うん、んっ♡ ずんずんずんずん♡ ずぶずぶずぶ、うう♡ チンポ、深いつ♡ マンコ、あちゅ、いい、っひぐう♡ ぐちゃぐちゃ言って、っへ、えっ、ケツかき混ぜて、んぐっ♡ きっ、気持ち、い、っひいい♡ っは、あっ♡ ん、うう♡ ほおらちゃんと脚っ♡ 締めっ、てえ♡ ケツマンコ、お、っほ、うんっ♡ ケツマンコ入り口も奥も、締め、でへっ♡ 抱っこされながらチンポも抱っこ、うう、っふうう♡

☆最後のとどめとばかり、「お客様」の濡れた唇に唇を押しつける紫乃。唾液を吸い、舌を絡め、肛穴に劣らぬほど犯していくと、全身に淫感が震えとなって伝わる。

(46:48)

ふふ、っふふ、うんっ♡ おケツマンコほじられっ、ると、っおっお♡ 上のお口もぱく♡ ぱく♡ ん、ううっ♡ とうひえんこっひ、んもお♡ おかひてあげ、まひゅ、んむ、っぷ、くぷちゅっ♡ っはあ、よだれおいひっ、ちゅぶるる、ずじゅっ♡ 舌もおい、っひいい♡ ぢゅ……ううう♡ っはああ～っ♡ こんなレイプ♡ お口もお尻も、あむ、んぶちゅ、うう♡ チンポ女になすすべなく犯、され、っちゅ、くちゅ、ちゅる、んん～っ♡

☆唾液にまみれた唇どうしを、淫液に汚れた性器どうしを強く押し付け合いながら、紫乃と「お客様」は絶頂する。

(48:02)

ん♡ ん♡ んっ♡ つふあ、つふふふ♡ ベロチューらぶらぶケツ穴レイプ、で、っへ、えええ♡ マンコ穴ぎゅぎゅぎゅぎゅ、うう♡ 吸い上げられて、イぐっ♡ っちゅ、ちゅぶっ♡ キンタマひっくり返して、イ、っぐ、うう♡ のけ反ったりなんかしちゃ、嫌ですよお、っほ、おおお♡ チューしながらチンポイって♡ ケツマンコ、イっ、でへえ♡ 上も下も全部っ♡ チンポ♡ オマンコ♡ お口っ、ぜっ、ぜんっ、ぶっ♡ イぐ♡ イぐ♡ イぐ♡ イ、っぐ、うう、はむ、んぶ、っちゅうううう〜っ♡

☆互いの接合部分から汗で融け合いそうな一つの塊になって、びくびくと脈打つ。「お客様」の弱々しい嬌声すら吸い上げるほどに、紫乃の口づけは執拗。

(49:02)

んちゅ、っちゅ、ちゅううう♡ つふあ、はぶ、っちゅ、ちゅく、ん♡ んっ♡ んふ、うう、っ♡ っくちゅ、っふあ♡ 出て、りゅ、っむ、ちゅうう♡ っは、ああ♡ レイプなんかで中イキされていらっしゃる分際であんあん気持ちよさげにお喘ぎになっ、てえ、んう、れる、るう♡ んぶ、っちゅう、んあ♡ お睾丸、ん、うう♡ ムラついて生産した精子即どびゅ♡ ぶりゅ♡ ああむ、くちゅ、ぷちゅるっ♡ ふふふ、そのたびに私たち、びくん♡ と身体を跳ねさせて……もっと融けて♡ んむ、ちゅ、うう♡

☆紫乃は「お客様」を抱き寄せたと思うと、耳元でいやらしく口角を上げる。当然のようにペニスはまた白濁を噴き、熱のこもった嬌声がこぼれる。

(50:43)

ん……うっ♡ よしよし♡ 処女マンコ穴、太チンポで掘り掘りされるの、気持ちよくても苦しいのに変わりはありませんものね♡ よくおがんばりになりました♡ さあ、紫乃のお胸にどうぞ……♡ なあん、て……セックス終わったとお考えですか♡ まだオマンコにオチンポ入ったままですよ♡ まだ肉サオを反り返らせたまま、マンコ肉をぐりぐり挟んでいます♡

(51:40)

ほら、ふう……♡ なんてしてしまうと、オマン、コ♡ ぎゅぎゅ、ぎゅっ♡ して、ん、っぐ♡ ふふふ、またキンタマ汁、ぶりゅ♡ ケツ粘膜に直接出しました♡ こんな些細なことで、お客様のオマンコ♡ もっと中出ししてよお♡ せっかくメスのオマンコになったんだから、熱ういザーメンごくごくしたいの♡ なんてわがままばかりおっしゃっては、きゅんきゅん♡ ん、んっ♡ 覚えたばかりのオチンポ搾精を得意げに繰り返して……♡

☆「お客様」の身体の淫らにすぎる反応に含み笑う紫乃。まどろむような快感に浸る「お客様」に、到底答えの出ない問いを投げかけながら、身体を軽く揺すり続ける……

(52:47)

(53:39)

どうなしますか♡ 一度チンポを抜いて、処女喪失ケツマンコ労わってさしあげましょうか♡ それともこのまま、は、あん♡ ずんずんケツ掘り続けて、一生オムツの手放せないゆるゆる肉穴になるまでマンコぶっ壊してさしあげましょうか……ふふふ♡ とりあえず、もう一度中に出してみたらお考えになりますか……ん、んう、うっ♡

第3話 お掃除、してほしいですわ♪

☆力なく痙攣する「お客様」の身体をベッドに横たえ、柔和に笑む紫乃。ペニスを引き抜こうとすると反応してしまう「お客様」を軽く撫で、労わる。

(00:00)

ん、うっ♡ ふふふ、そうは言っても、もうおケツ穴痺れてしまって、せっかくチンポ挿れてさしあげていても、うーうー♡ って弱々しくお喘ぎになるばかりですので、一度抜いて休憩ということにいたしましょうか♡ ほら、背中を支えておりますから、ベッドに寝転びましょうね♡ ん、しょ……♡

(00:46)

はい、すう……はあ……ゆっくり息を吐くと、直腸マンコ肉がチン竿ぎゅーぎゅー一食い締めるのをやめて、ふにゃあ♡ ふうう……すっかりセックス汁でどろぐちゃの肛門も、元のふわふわアナルに戻って、紫乃のチンポ、抜けていきますよ♡ あ……ぶっとい肉サオが、ずる、ずる、う、っん♡ マンコひだをぞわぞわ擦りながら抜けて、うあ♡ っふ、う♡ マンコ穴きゅっきゅっきゅ♡ オチンポいかないで♡ 僕のオマンコの中にずっといて♡ なんて軽イキずうっと止まりませんけれど、がんばって、ん、っくっ♡

☆ペニスが肛門を抜けると紫乃は、仰向けで断続的に震える「お客様」を観察して辱める。汚液にまみれた肛門を間近で眺め、舌を舐めずる。

(02:10)

さあ、カリ首は一気に抜けますからね♡ せ、えの、んんっ♡ んお、おほっ♡ ……また、軽くイって、っひ、いっ♡

(02:32)

さ、て、っへえ♡ 身体を起こし、まして……♡ オチンポ抜けたお尻の穴は……そうですね、よく見えるように、腰ごと抱えてしましましょう♡ ん、しょ♡ ……ふふ♡ ふふふふ♡ 当然のごとく、こちらもべちゃべちゃとお汁にまみれておいでの濡れアナル♡ あらあら♡ セックス直後のイキ肛門、私の目の前でばくばく♡ ひくひく♡ こんにちは♡ なんて、挨拶ができてとっても偉あいマンコ穴あ♡ ……じゅるるっ♡

☆紫乃は唾液をまぶした舌で「お客様」の尻穴を舐めほぐし、詰まった濁液を吸い上げては舌鼓を打つ。ペニスが自然といきり立ち、腰はかくかくと宙を漂う。

(03:34)

はあ……お客様もご覧になれたらどんなによいでしょう♡ チンポの太さに、縦にも横にも広がってしまって♡ なんとか元のちいちゃな穴に戻ろうと、肛門括約筋をぎゅうぎゅう締めつけて、なのにどうしても真ん中がぽっかり♡ そう、ちょうど……くちゅ、ちゅぶ、んぱあっ♡ ちょうど、私の舌先を挿しこんでぺろぺろと舐め回してしまえるくらい♡ ほら♡ ケツ舐めに驚いて、急いで肛門閉

じるふりをなさって、でもねえ♡ そのたびに桜色のマンコ肉がちらちら覗いて、ああ、とてもおいしそう、んちゅ、むぶ、つくちゅ♡

(04:49)

ちゅ、ちゅ、ちゅう♡ んあ、ああ♡ つふふ♡ きちんとぽこぽこぽこ♡ 丁寧にケツマンコかき混ぜたおかげで、ぶくぶくに泡立った交尾汁♡ 中出しキンタマミルクと、ケツマン粘膜のひだひだに引っかかった腸液がぐちゃぐちゃ混ざって、っちゅう、んぐ、っふう、はむちゅ♡ 脂っこくて生臭くて、はあ.....ぐちゅ、ちゅ♡ んお、おう♡ あああ♡ 舌先に絡めるだけで♡ チンポのおサオが、肉棒、がっ♡ びきびき、びきい♡ はあ、っはあ♡ またまっすぐびいーん♡ ぽ、勃起っ、はむ、んっむ♡

☆前のめりになり、「お客様」の尻臀を押し潰すように唇を押し付ける紫乃。「お客様」の嬌声も聞こえず、睾丸の疼くまま舌を這わせる。

(06:14)

んん、んっ、んう♡ ケツ汁、おいひ、ん、ぶちゅ、ちゅ、んるる♡ ふふ、っひひ♡ ぱくぱく肛門、肉厚の唇でぜえんぶ包んで、れる、える、れろ、おん♡ んむあ♡ アナル穴ディープキス、なんて汚いの、変態なのに、むちゅ、んくちゅ、う♡ ケツ舐め止まらな、んう、むぶっ、つぶあ♡ ん、ふふ、お客様の汗ばんだキンタマ袋の裏にお鼻押し付け、て、んす、っすう♡ メスくっさい匂いくんくんしながらチンポおっ立ててケツ穴ちゅうちゅう、んぶっ♡ やめられないんれひゅ、ちゅ、んむ、うっ♡

☆紫乃の合図とともにアナルを吸い上げる音がひときわ高く響く。朱唇と肛門が離れると、白濁した太い糸がその間に架かり、自重でぷつりと切れる。

(07:53)

.....ん、んふ、ふっ♡ いい、ですかお客様、っは、ああ♡ 今からお客様のケツマンコ♡ 一息に吸い上げますので♡ お客様も、おててはグー♡ して、ぽかぽか肛門から、直腸の底から、むりゅ♡ むりゅ♡ くさあいオス種をお吐き出しになってくださいね♡ ふふ、たっぷりキンタマから新鮮ザーメン汁、わざわざケツマンコに移し替えて♡ その上、淫売女のあったかあい口腔にぷりゅぷりゅ♡ と排泄してしまうなんて、考えただけでキンタマ袋の底がもぞもぞ疼く変態行為ではありませんか.....♡

(08:49)

では、いきますね♡ 唾液で湿らせた唇を、隙間なくぴったり肛門に、んむちゅう♡ はりふけ、まひてえ.....ほっふえたがへっこんふえひまうふらいに、ふう.....んちゅ、ちゅ、うう~♡

☆短い喘ぎを境に、打って変わって静かになる紫乃。元来の美貌に似つかわしくない、膨れた頬をたぶたぶと揺らしながら、「お客様」に顔を近づける。

(09:23)

ん、む、つぶ……つ♡ ……つぶー♡ ふう、つぐちゅ、ぐちゅ♡ くちや、んふあ♡ ふおら、おひやふ、はまあ♡ ひののおふあお、ごらんになっふええ……ぐひゅ♡ ぐひゅ♡ ほっふえたのなふあでおひる、かきまふえへえ……おくひ♡ あふえて♡ あーん……♡ ひたら、わらひのくひふいる、ふおこに、んむちゅ♡

☆接した唇の間を、粘り気のある濁流が流れ下る。悪臭と雑味に目を白黒させる「お客様」を、紫乃の淫熱に淀んだ瞳が見下ろしている。

(10:18)

んぶ、んう～……つぶっ♡ あええ、える、れるう♡ くぶ、つぶう……んぶ、ああ♡ もうひわけ、ごふあいまひえん♡ このようにおいひい、ひんふおじる♡ おけひゅじる♡ ひとりふいめひようなど、ふあめ……んふ♡ まだ、ふおっへたにたつぶりふまっておりますふのれ、つくちゅ、んう、んうう♡ ……っは、あっ♡ お客様と私の、甘くて臭あいセックスのお汁♡ ご存分にご堪能くださいな♡

☆赤子をあやすような甘ったるい声とは裏腹に、紫乃の剛直は白い腹に張り付くほどに硬く、熱を帯びる。

(11:11)

ふふふ♡ ザーメン汁の残り、一生懸命飲み干しながらでよろしいので、こちらに顔をお向けになって♡ ……わああ♡ むくむく持ち上がった、太おい肉マラの、根元にべっとり♡ カリ首に、べちゃあ♡ 裏筋に沿って、つつー……ふふ、ずぼずぼケツ掘り交尾の残りカス、たつぶりへばりついて♡

☆濁汁を口に運ぶさまを見せつけ、「お客様」の羨望を煽る紫乃。お預けを食らうじれったさを、「お客様」に代わって語る。

(11:58)

ほら、人差し指を一本立てて、ぷくりと張った裏筋、こしこしこし……ん、つぶ、うう♡ そして♡ 指先に乗った白い塊を、あーん……ぶちゅ♡ んむ、ぐっ♡ ぶちや、ぴちや、つく、ちゅちゅう♡ んふ♡ 思った通り♡ 甘くて、あつあつで、つぶちゅ♡ ふふ、お客様、ご覧になってえ♡ この女、チンポから噴いたお汁を味わって、チンポの頭をまた、んちゅう♡ ぴこん、ぴこん♡ と跳ねさせ、てへえ♡

(13:06)

ん、つぶふ♡ ああ♡ それおいしいやつだよ♡ 僕にも食べさせてえ♡ まだオチンポにいっぱいへばりついてるの、飲ませてほしいのお♡ チンポ汁食べたすぎてぺろぺろ♡ ペロペロ♡ 舌はみ出させてぺろぺろ踊りしちゃうよ♡ ほおら、チンポはゆうらゆら♡ 舌はぺろぺろ♡ しながら……だんだん、少しずつ、お客様の頭の、上のほうに移動して♡ 頭の両側を太ももで挟むように、座ってしましましょう、ねえ♡

☆紫乃はペニスを妖しげに揺らしながら、横たわる「お客様」に芝居がかった口ぶりで語りかける。ペニスが湿った音を立て、「お客様」の顔に触れる。

(14:06)

あら♡ あら♡ びくんびくんとチンポが上下を繰り返すたびに、まっすぐ上を向いていた亀頭が下がって行って、びん、びん♡ ああ、もうサオに巡った血管のでこぼこまでしっかりと見えるほどお顔に近づいて、ぴこ、ぴこ♡ はい、お口は閉じて、お行儀よくう……ぺたん、ん、んっ♡ つふ、ふふ、うう♡ は、ああ♡ お客様のお顔お……丸々肥えた、中太メスチンポの下敷きになってしまいました♡ ふふ、おでこから顎の先までゆうゆう届く、長くて太くて硬あいチンポ♡ 真っ赤な亀頭を顎に乗せて、おかわいらしいこと♡

☆紫乃は「お客様」の面体に汚れたペニスを押し付け、軽く前後させて息を漏らす。ペニスと合わせて、「お客様」の尊厳を貶める言葉も忘れない。

(15:24)

それで、額もお鼻もお口もまとめて、お顔をチンポ置き場なんかにしてしまうお気持ち♡ somewhere、っあ、やん♡ こうして、ずり、ずり、っひ、いっ♡ べとべとの粘液にまみれた肉棒をお顔に擦りつけられてしまうお気持ち、いかがですか、あっ♡ ん、っふふ♡ お聞きするまでもないですわね♡ お鼻、ふご♡ ふご♡ っものすごい音立ててちんちん嗅ぎ嗅ぎ止まらなくて♡ 必死に固く結んだ唇の下で、ぬるぬるれろろ舌が暴れ回って、おめめだってチンポ♡ チンポ見たい♡ ってひどいお顔、っへ、えへえ♡

☆ひそめた声で「お客様」をさらなる昏い楽しみへと誘う紫乃。「お客様」の舌先にペニスを撫でられ、切なげな嬌声を漏らす。

(16:28)

……どこかなー♡ オチンポどこかしら、あ、っはっ♡ チン竿がずるずるお顔を撫でて……ぴたっ♡ あらあら、チンポの亀頭の割れはじめ、んんっ♡ ぷくりと膨れた裏筋とおお客様の唇が、ちゅ♡ と触れてしまいました♡ あ、あ……誰にも気づかれないほどゆっくりと唇が緩んで、ちろちろ♡ 舌が這い出てきます♡ もうほんの少し♡ 少しだけ舌を突き出せば、甘いチンポ♡ 臭いチンポ♡ おいしいチンポ♡ ほら……ほらあ♡ 舌先を反り返らせて、ぺろっ♡

☆ペニスの隅々まで這う朱舌の熱に、感触に、紫乃の口角から切なげな声が漏れる。隠しきれない劣情で、もっともっとと舌をせがむ。

(17:36)

んん、うう♡ つふ、あっ♡ 裏、筋い♡ まっすぐ、ぺろ、ぺろ、つく、うん♡ んああ♡ 左から、右から♡ 唾液たあつぷりまぶした舌、先、っひ、ひい♡ ぞりぞり♡ っ♡ チンポの裏のへっこんだところ、んっ、んん♡ っぐ、うう♡ ほじ、ほじ♡ ふ、っふふ♡ おいしい、です、ねえ♡ 汗の味♡ キンタマ袋の内側の味、いい♡ っひっ♡ ケツマンコお肉の味、おいしい♡ おい、っひいん♡ ペ

ろぺろぺろ♡ 思った通りのオスのチンポの味、もっとお♡ んふっ♡ もっと舐めるのお、っほ、うう♡

☆紫乃は、「お客様」のためを思ってといった口ぶりで指示を下す。その実、ただ自分のペニスを気持ちよくさせるための淫行へと導いているだけ。

(18:38)

んふ♡ お客、様あ♡ お・ち・ん・ぽ♡ お、おお♡ お客様の唇で、ぱくっ♡ っして閉じ込めてしまえば、もおっとおいしい、んんっ♡ じゃ、ないかしらあ、あ、っふっ♡ ほら、よだれでてらてら濡れ光るピンク色の唇に、キンタマ欲求、っふうん♡ どくどく催してたくましく膨れたチンポ♡ お客様に好きなだけぺろぺろされ、ってっ♡ 尿道穴とろとろ濡らす変態チンポ♡ お客様のぱくくん♡ を待って、膨れ、てへえ♡ ほら、蒸れ亀頭が唇のちょうど真ん中、っ……あーん♡ してえ、ぱっ、くん♡

☆ひたすらにペニスの先に吸いつく「お客様」の勢いに、のけ反りそうなほどの快感を覚える紫乃。硬くいきり立つペニスと裏腹に、声は「お客様」をあやすように蕩けていく。

(20:05)

う、っぐ、ふあ、ああん♡ ペロペロじゃ、なく、てへえ♡ っちゅ、ちゅ、ちゅうう♡ って、へひっ♡ 力いっぱい、亀さんちゅーちゅーされ、っええ♡ ひゃ、ああ♡ 抜け、ちゃうっ♡ う、うう♡ チンポ穴から、ずるずるずる♡ あ、ああ～、っん♡ どろっと濃ゆいカウパー、じ、るっ♡ 温かいお口に、ぴゅぴゅ、ぴゆる♡ 噴くっ♡ チンポの先から噴き出したお汁、っふ、ふうーっ♡ ほっぺたの内側にとぶとぶ溜まって、えひっ♡

☆紫乃は「お客様」にあれやこれやと指図をし、そのたび新奇な快感に打ち震える。その一方で、「お客様」の頭の両側の膝の間隔が少しずつ狭まる。

(20:59)

ほおら♡ むちっ♡ っと尖ったカリ、首ひい♡ よく動く舌の先っぽで、ぐる～っ♡ と、一周……う、うう、っふうう～っ♡ っぐぐ♡ むっ、むう、むき出し粘膜こしゅられ、っへえ♡ チンポお、ばきばきばき♡ っふふ♡ 勃起、きつくなってしまう、っんん♡ ってっ♡ もお次っ♡ 亀頭さんの平べったいところ、ぺろぺろ、おお、っほ、っぐほおお♡ お、っんう♡ 舌のざらざらがいっぱい、いっぱい当た、って、っでひっ♡ っひっ♡ お口の中で亀頭、ぴょんぴょん跳ね、っへええ♡

☆ふと、紫乃と「お客様」の目が合う。暗い瞳とぞっとする冷たさの声とともに、紫乃の膝が「お客様」の頬を挟んでしまう。

(22:04)

ふふ、ふう♡ そんなにっ♡ オチンポおいちいのお♡ っておめめきらきら♡ よかったですね♡ オチンポおいちいからちゅきなのお♡ ん、うう、つく♡ そうなんだあ♡ 甘いのがちゅき♡ しよっ

ぱいのがちゅき♡ 臭いのがちゅきい、っひ、ああ♡ ふふ、うんうん顔かれている間も、ちんちんくわえて絶対離さない♡ 唇ぬもっ♡ っと肉竿に巻き、つけて、っひっ♡ オチンポ絶対逃げられない♡ んう……でしたら、いっそほっぺたを私のお膝で挟んでさしあげ、ってえ、んん〜っ♡

☆状況が飲みこめない「お客様」に語りかける紫乃。獲物を手の内で弄ぶ獣の凶暴さが声に滲み、所作がそれを嘘ではないと証明している。

(23:19)

あら♡ だあいちゅきなちんちんちゅーちゅー♡ おやめになってどうしたの♡ ……ふふ♡ びっくりさせてしまいましたか♡ いえ、丁寧にチン先たっぷりちゅばちゅばお掃除いただいたおかげで、すっかり亀頭はちゅるぴか♡ ……ですけれど、おサオの根元にかけてへばりついた濃ゆいセックスの残り汁、味わっていただこうと考えたときに♡ こうして首を固定して、私が動くのがよろしいかと♡

☆紫乃は「お客様」には届かない虚ろな声で、「お客様」の白い喉を性器とみなして発情する。

(24:04)

はああ……♡ お客様の首がまっすぐになって、こうして軽く顎を持ち上げてさしあげると、薄暗い照明に白くて柔らかそうな喉が浮かび上がってえ……マンコ穴、マンコ穴、マンコ穴あ……ふ、ふふ♡

☆紫乃は「お客様」の喉を犯し、その狭隘さに苦しげな嬌声を漏らす。ペニスの先からも涙汁が流れ、容赦ない腰振りで喉穴を広げていく。

(24:35)

ほお、ら、ほら♡ ん、つくう♡ 先程みたいに♡ ちんちんだいちゅき♡ 僕、ちんちんくわえてるだけでえへえ♡ っってお顔が笑っちゃうのお♡ なんてチン媚びなさっ、て、へええ♡ ほら、えへえへ♡ ああ、っふっ♡ チンポおいちい♡ おいちちゅぎてお口がふわ〜♡ ってなっちゃうよお♡ あくびするみたいにふわ〜……喉マンコ、くぱ、ああ♡ 僕ねえ、お喉もぬるぬるできもちーんだよお♡ だからオチンポきてきて〜♡ ふふ、はあ〜い♡ オチンポ参りまあす♡ 腰を突き出して、ずぶずぶ、ずぶ、うう♡

(25:36)

あ、ああ♡ これ、ええ♡ これ、狭、すぎ♡ ん、つぐ、うふっ♡ っは、ああ一つ♡ ぶっといおサオ、ぎち、ぎち、っひい♡ 締めつけられるの、好きで、っふうう♡ っふふ♡ 初物マンコ、うう、っん♡ っくっ♡ ケツマンコに引き続き、の、どお♡ っほ、おお♡ 喉までチンポ入れるための穴に、してっ♡ ずぼ♡ ずぼ♡ 狭あい穴、うあ、っふう♡ 亀頭で拡張してしまうの好き、すぎて、っへへえ♡ 陰囊の中でお睾丸、ばちーん♡ ばちーん♡ ぶつかって精子っ♡ 作ります、ううう♡

☆臀部を「お客様」の顔に打ちつけるような侮辱的な姿勢で、紫乃は口淫を愉しむ。身勝手な言葉でいちいち「お客様」に語りかけ、羞恥を煽り立てる。

(26:35)

はあ、あんっ♡ すごい、です、う、っぐ♡ お客様の喉、まんっ、こ、っほおお～っ♡ 突けば突くほど、ぬるぬるのお汁、出、てへえ♡ んっ♡ んっんっ♡ オチンポ、亀頭も竿も溶けてくつついてしまい、そ、お、おんっ♡ ほ、っらあ♡ でっかいお尻、っひひっ、んぐ♡ お顔に向けてずん♡ ずん♡ 振り下ろすたび、ん、んうん♡ でっぶりキンタマ袋が額にべち♡ べち、っぐぐっ♡ えらいね♡ 喉マンコ上手に、うあ、っはっ♡ レイプされてえらいね♡ よしよし♡ って、頭、なでなで、っへ、えええ♡

(27:36)

っふ、ふふ♡ 硬あい肉サオで、ぺちゃんこに潰れ、たあ、お鼻で、んぐ、っひい♡ ぬるぬるのチンポ裏、ふーふー、っふ、うう♡ って必死に呼吸、んあ、ああ♡ なさっ、てえ……っあっ♡ 空気足りなくて頭、ぽわぽわ♡ あう、っおお♡ してしまいます、っ、もんねえ♡ いいですよお♡ 足りない頭に擦りこんでしましましょう、うう、んっ、ねええ♡ 僕のお口♡ 僕のお喉♡ なんの穴？ チンポ入れる穴、あ、っはああ♡ だから唇、マンコ穴♡ もっとチンポにちゅー♡ ってするの、お、おほ、っおお♡

☆紫乃のままごとじみた口調と引き詰まった嬌声が、「お客様」の思考を麻痺させる。喉に溜まった淫熱がじんわりと「お客様」の全身に広がり始める。

(28:41)

そんなふう、頭ぽわぽわ～なときに、ん、んっ♡ 太チンポ根元まで、ずぶずぶ、ぶちこん、で、っへええ♡ 喉マンコピストン、止めてしまうとお……♡ あら、あら♡ 今犯してもらっているのは喉マンコなのに、どうしてお膝、もじもじさせていらっしゃるのかしらあ♡ もしかして……お尻マンコ♡ うず、うず♡ ひく、ひく♡

☆突如として紫乃は声をひそめ、暗示をかけるように「お客様」に語りかける。さも本当らしい口ぶりで、「お客様」の身体に灯る熱を育てていく。

(29:27)

……どうしてケツ穴、疼いてしまわれるのか、おわかりですか、あ、んっ♡ ふふふ♡ それは、お客様のお身体が、メスになろうとがんばっていらっしゃるからなのです♡ お喉にチンポをぎゅっり詰め込まれて♡ しっとり湿った肉厚キンタマ袋で、たぷり♡ とお顔を覆われて♡ ふ、うう……っ♡ 先、程お、ん♡ チン先でずんずん突かれたケツマンコの奥のところが、じわじわ熱くて、またその熱いのを欲しがって♡ 気持ちよくなることばかり考えて、それで勘違いしたちいちゃんおちんちん、ぴん♡ と勃ててしまって……♡

☆かと思うと、ふと不安げな声で「お客様」に問いかける紫乃。見え透いた誘導尋問も、酸素の足りない「お客様」には存在意義を問われているように思えてしまう。

(30:43)

でも、でも、っお、うう♡ いいのかな♡ お口あーん♡ して、ぶっといチンポ、っほ、おお♡ つく♡ もぐもぐして、おサオに、ん、っぐ♡ はりついたきったない交尾汁とびゅびゅ、うっ、うーっ♡ 飛び出すオチンポ我慢汁ぺろぺろ、う、うんっ♡ 食べ比べて、マンコ穴あ♡ んは、っあ、んっ♡ 喉マンコ♡ ケツマンコ♡ 上も下もチンポずぼずぼ、んお、っほっ♡ きもち〜♡ って♡ チンポだいちゅき〜♡ って、うぐ、つくう♡ なっちゃっ、てえ♡ いい、のかな、んあっ♡

☆総身を快楽で波打たせる「お客様」を、紫乃は無条件に肯定する。煽情的な言葉で雌の快楽をこれ見よがしに強調し、その通り感じてしまう「お客様」に愛おしさすら覚える。

(31:36)

.....ふふ♡ いいんですよ♡ だってお客様は、メス♡ なんです、か、らあ♡ んっ、んう、っふう〜っ♡ だから、こうやって、こう、やってえ、っへえ♡ また始まったフェラピストン、で、えひっ♡ びくびく喉マンコ肉、ううん♡ チンポのおサオにぬとぬと絡ませるの、息苦しくてきもち、いひっ、よお♡ おお、っほお♡ ねーねーっ♡ お喉ずぼずぼ、っひっ、っぐ♡ とってもきもちいんだよ、っぐ、ううん♡

☆「メス」をことさらに強調する紫乃。「お客様」に恥ずかしい体勢と動きを強要し、それを見て自らも昂ってしまう。

(32:22)

そうなんだあ♡ よかった、んあっ♡ です、ねえ♡ ならもっと気持ちよく、っ♡ もっとメス、うっ♡ なっちゃいましょ、っお、っほっ♡ ほら、お膝立てて足でバランス取って♡ 見て見て〜♡ って甘勃起おちんちんふりふり、ん、うう♡ お尻っ、穴もお、おう、っふ♡ 喉にオチンポずぼ♡ ずぼ♡ 出し入れする、っぐ♡ たびにい♡ 肛門、んんっ♡ 色の濃いお肉、むりゅむりゅ、うう♡ 自分もレイプしてもらってるつもりではみ出てきもち♡ いいね♡ メス、っふっ♡ メスです、ね、っへえ♡

☆噴精に向けて昂り始めた自らの性器伝いに、紫乃は「お客様」にも絶頂を強いる。もっとも「お客様」は言うなりで、身体のあちこちを緊張させて性感を高める。

(33:20)

メス♡ だから、っあっ♡ふふふ♡ お気づきになりましたね、ん、っ♡ べちゃべちゃべちゃ♡ 私がチン腰振ってももうお客様のお顔からどいてさしあげる素振りもない、みっともなく、だらしなく垂れ広がった種汁たっぷり陰囊♡ ふあ、あっ♡ しっかりまんまるキンタマ二つ分の重みを感じていたのに、ふと軽くなって、キンタマ袋全体が引き締まって、きゅ♡ そうです♡ オチンポいきます♡ 喉マンコで射精♡ するために、どくっ♡ どくっ♡ 一生懸命どろどろザーメンを送り出して、っはあ、っはああ♡

(34:13)

あああ♡ 嬉しい♡ 嬉しいよお♡ 僕の喉マンコでオチンポイってくれるんだあ♡ ああ、んっ♡ 僕も♡ 僕もイクもんっ♡ メスだからオチンポにくっついて、オチンポイったら一緒にイっちゃうんだもんっ♡ ちんちんぴーん♡ っておっ立てて♡ ケツっ、マンコお、っほ♡ 触ってもないのにむぎゅ、むぎゅ♡ 縮んで、お喉っ♡ 喉マンコも、お口も、犯してくれてる極太オチンポいっぱいぶりゅ、ぶりゅ♡ できるように、ぢゅう♡ 吸い上げ、えっ.....もんっ♡

☆紫乃は狂熱に浮かされた目で中空を見つめ、うわごとのように暴力的な言葉を口にする。容赦のない腰振りに「お客様」は悶えるが、紫乃はもはや気にしない。

(34:52)

あああ♡ そんなふうにメス♡ オマンコ♡ と挑発されてしまっは♡ ふ、っふふ♡ 何があっても喉マンコ逃げないように膝で顔、挟、んっ、でえ.....喉ハメ腰、振り、ます、っうん♡ んっ、ん、んう、っふう♡ のっ、喉肉、うう♡ むきっ♡ っと張ったカリ、首、っひいい♡ びちびちびちびちめくれ、っでひ、ひひっ♡ もっ、もう、うう♡ お射精みたいな勢いで我慢汁とぴゅとぴゅ飛び出し、って、へええ♡ うっうっうう♡ おサオ、っほお♡ 根元から、ぶく、ぶく膨らむ、っぐう、うんっ♡

(35:47)

んふ、ふふう♡ お喉っ、ねえ♡ まだ、っああ♡ 足りませんものねえ♡ 熱いあつういオチンポに掘り返されて、ずりゅ、ずりゅ、うう♡ お肉蕩け、っひっ♡ けど♡ カウパーすみずみまで塗り塗りしてもらって、んっ、ふう、うーっ♡ け、どっ、おおん♡ まだ♡ 中出し♡ まだあ.....っふふふっ♡ ん、っぐ♡ 喉穴に大量お射精♡ キンタマ直通、うう、うふっ♡ ザーメンぶりゅ♡ ぶりゅ♡ 中出し、んっ、でえ♡ お喉、オマンコにしてさしあげ、ます、わあ、んあ、んう、あっ♡

☆紫乃はもはや前後不覚の体で、自らも「お客様」も融けあってしまったような感覚の中、濁った声でいななき、絶頂する。

(36:31)

うぐ、っぐ、っぐうう♡ ぶびゅぶびゅ♡ する、っうう♡ ぶびゅうう〜♡ ってチンポっ♡ イくっ、です、ううん♡ 喉穴掘るっ、でっ♡ マンコに、しまひゅ、っうう♡ 中出しっ♡ ぶびゅびゅ♡ っていっぱい♡ っで、っひひっ♡ チンポ穴ぐばああ♡ って開いて、ぶびゅ♡ おでぶさんキンタマぶく、ろお、お、っほお♡ むぎゅうう♡ お顔、押し付け、っでっ♡ で、出え、っりゅ♡ ぶびゅ♡ ぶびゅ♡ 喉マンコ、ううう♡ っぶ、っぶびゅ♡ ぶびゅ、う、うう、ううう〜っ♡

☆一度大きく身体を跳ねさせると、糸が切れたように力の抜ける紫乃。かと思うと虚ろな瞳で「お客様」を見下ろし、ひどく楽しげな声で残酷な思いつきを告げる。

(37:20)

っふ、うううっ♡ んん♡ っぐぐ、ぐ、う〜っ♡ っあ、ああ.....聞こえて、らっしゃいますかあ、あう、っぐ♡ お客、様あ♡ んぶ、うっ♡ 私のオチンポ♡ 肉傘みぢ、いつ♡ っと開いて、んう♡ っほ、おおおお♡ キンタマむぎゅ♡ 縮めてぶびゅ♡ どぶ♡ 種汁絶賛ぶりゅ出し中なのですけれ

ど、んじゅ、るるう♡ んふっ♡ このままチンポむりやり抜いてしまったらどうなるのかしら、っは、ああ♡ 喉、っ♡ マンコお♡ 抜いてみましょうねえ、っへ、へ、ええっ♡

☆快楽を覚えるたびぎこちなく腰を強張らせ、紫乃は喉穴からペニスを引き抜いていく。明らかに異常な「お客様」の反応にも声を弾ませる。

(38:42)

おっきなお尻、持ち、上げ、てへえ……うう、んうう～っ♡ んぐひっ♡ カリ首、引っかかって喉、肉、っほおお♡ イキたておサオの血管びきびき表皮ぞりゅぞりゅ撫でられ、ええ、っひっ♡ オチンポっ♡ オチ、ンポお♡ 喉マンコの中、で、っふふ♡ ぶびゅっ♡ ぶりゅっ♡ って、っへえ♡ チンポ汁、飛ばして、きも、ちい、んお、おおっ♡

(39:24)

あ、ああ♡ お客様あ……喉マンコ、ぶるぶる痙攣、っぐ♡ きてしまいましたねえ♡ っあ、っはーっ♡ やだやだやだ♡ チンポいかないでよお♡ もっとあつういキンタマミルクびちゃびちゃぶっかけて♡ ごくごくさせてえ、んんっ♡ なん、ってえ♡

☆ぬらぬらと濡れ光るペニスが抜けると、共に汚れたペニスと「お客様」の顔に、視線を行き来させる紫乃。思わず温かい笑みをこぼす。

(39:57)

でも、残念、そんなに熱烈に、ん、んう♡ 唇ちゅうう……って、へえ♡ 隙間なくオチンポに巻き付けていただいても、お口の中もう亀頭だけ♡ あ、うんっ♡ オチンポ、抜け、ます、うっ♡ あら、あわよくばお掃除フェラ、なんて厚かましくも考えていたのですが、私……おしゃぶりいただく前より、べとべとぬちょぬちょ粘液が張りついて♡ ふふ、お客様もひどい顔♡ キンタマ脂でてかてか光って、お口の周り、濁ったザーメンだらだらこぼして、なのにだらしなあく緩んだ、幸せそうなメス顔お……♡

☆あくまで笑みを浮かべたまま獲物を丸呑みする蛇のごとく、紫乃は「お客様」に顔を近づける。息の混じった悩ましげな声が、「お客様」のかすんだ意識に響く。

(41:08)

お口なんか特にゆるゆるですわ、ねえ♡ ふふ、こうしてお顔、近づけますと……すん、すん♡ ああん、くっさあい♡ キンタマの中の濃ゆう～いにおいが、呼吸するたび、むわ♡ むわ♡ 漂ってしまいますね♡

(41:46)

ですけど、それが当然かと♡ だってほら、私の手で撫でてさしあげます……お腹マンコ♡ 食道マンコ♡ お喉マンコ♡ お口マンコ♡ ぜえんぶまとめてザーメン中出し♡ ぜえんぶオマンコ♡ メスの身体、オマンコだから撫でられるだけでチンポもっと欲しくて、びくびく♡ こんな身体でセッ

クスしてしまったら、気絶なさってしまうほど、処女を捨てたときよりもっと、感じてしまって……ふふ♡ お客様、私、どうしてかキンタマがまた疼いてきてしまいました♡ どういたしましょう、ね……♡

第4話 女の子♪ 女の子♪ 女の子っ♪

☆紫乃は「お客様」の耳元でゆっくりと呼吸する。汗や淫液のにおいの混ざった空気や、紫乃の妖しげな声が「お客様」に安堵を許さない。

(00:01)

すう……ふう……うふふ♡ そろそろ、ものをお考えになれるようになった頃かしら♡ もっとも、お身体は何一つ元通りではありませんけれど♡ 空気が欲しくて、息を吸って、吐いてとするたびに、お鼻を通り抜ける青臭いキンタマ汁の香り♡ せっかく私がお尻からじゅるじゅる中出しオスミルクをすすり出してさしあげたのに、また♡ また、どぶどぶどぶ♡ 胃に直接どろどろ粘っこい精液を大量に注ぎこまれて、お腹がぼっこり♡ あ、また……はあ～♡ くんくん♡ 生チンポ汁のにおい、しゅきい♡ ふふっ♡

☆再び疼き始めた「お客様」の身体を言葉で縛り、体勢を変えさせる紫乃。劣情を催していることを熱っぽい吐息に、言葉に滲ませる。

(01:41)

……よしよし♡ チンポだいちゅきなよい子はお耳ぺろぺろのご褒美い……んちゅぷ、くちゅ、ずるる♡ つはあ♡ さて、よい子のお客様は、おててをももにくっつけて、気をつけ♡ って、できるかな～♡ ……はい♡ 行儀よく気をつけの姿勢になって、ふふ♡ オチンポもまっすぐ気をつけして偉い偉い♡ すぐ言うこと聞いてしまうのは♡ エッチなことしてもらえてわかってるもん、ねえ♡

(02:51)

では♡ お身体をごろん、とひっくり返してしましましょうね……よい、しょ♡ あら、お背中が汗でびっしょり♡ 背骨に沿って、産毛が湿って、倒れて……ぷりん♡ と盛り上がったお尻がつやつや濡れ光って、んじゅ、るる♡ はあ、おいしそう♡ あのお尻の谷間、どうなっているのかしら♡ 考えるだけで、ん、ん♡ つふふ♡ チンポ勃起します♡ 硬あく膨らみます♡ 私、女だてらにむく♡ むく♡ と太おいチンポを勃起させながら、お客様のお尻のほうへ移動しますわね……♡

☆紫乃は不安と期待に硬直した「お客様」の身体をねっとりと弄ぶ。煽情的な行為に不釣り合いな、ゆったりとした声。

(04:10)

ふふ……本当にお客様のお尻、柔らかくて、ほら、両方のお尻たぶにおててを当てて、むにゅ、むにゅ♡ 指先が沈んでしまいます♡ 桃尻、と呼ぶのがふさわしいかしら♡ むぎゅ～♡ と真ん中に寄せると、おっぱいみたいに盛り上がるケツの谷間♡ 反対に、ぐいい♡ と力いっぱい広げてしまいますと……肛門の周りにねばねばと糸を引く中出し汁♡ お尻もみもみしてさしあげるたびに、ケツ穴の内側からこぼりこぼりと湧いてきて、は、ああん♡

☆紫乃は「お客様」の身体を爪の先でなぞり上げ、そのまま耳元に唇を運ぶ。ペニスはすでに臨戦態勢で、「お客様」の臀部に身をすり寄せて劣情を伝える。

(05:09)

んじゅるう♡ あら♡ たまたまの縫合線.....お尻マンコ、汗ばんだ腰骨、ぷるぷる震えるお背中、うなじ.....ふう♡ お客様のえっちな部分、ぜんぶ丸見えです♡ ねえお客様あ♡ 紫乃ったら、交尾♡ したくなってしまうましたのお♡ 肉竿をびきびき膨らませて♡ その上、ん、う♡ 覆いかぶさって、恥ずかしげもなくお尻の谷間にずうり、ずり♡

☆ただ犯すだけでは物足りないばかり、紫乃は「お客様」に交尾の合図をねだる。肛門性交が褒美になってしまう異常な状況の中、紫乃の声は甘ったるく、脳をふやけさせる。

(06:28)

あ、んっ♡ あの.....交尾のおねだり♡ などしていただけると、その、やはり合意の上でのガン掘りレイプがいちばん濃ゆいので、はい♡ おねだり、と聞いただけで、ぱく♡ と緩んでしまうマゾ穴をお持ちのお客様に、メス声で「オマンコ掘ってえ〜ん♡」などと頼まれてしまっては♡ おケツマンコひっくり返ってしまうほど掘り掘り♡ キンタマ袋空っぽになるまで交尾汁撒き散らかしセックス♡ ほら.....ぬとぬとアナル穴に、チンポ穴で、ちゅ♡ 腰を少し突き出せば、もうそれだけで、こ・う・びい.....ん、っ♡

☆「お客様」のおねだりを聞いて、紫乃は愉悦に満ちた笑みを浮かべる。じわじわと肛門に押し付けられるペニスで、「お客様」の声が上ずる。

(08:04)

さあ.....おねだり、お願いいたします♡ 「僕のオマンコ、掘ってえ〜ん♡」ですよ♡ せーの♡それじゃ、だあめ♡ も〜っとメス♡ メスになれる必要があるのではなくて♡ 鼻にかかった、情けない声♡ チンポなんてついてません♡ ついていたとしても、とうていメスを孕ませられるようなオス臭いザーメンなんか出せません♡ と、か細くていやらしい声でチンポを誘惑されるとよろしいかと♡ ふふ、おねだりと同時にアナルに力を入れて、むりゅ♡ と柔らかいお肉で尿道口を包みこむのもお忘れなく.....♡

☆懇願する声が途切れるが早いか、紫乃のペニスが「お客様」を貫く。すでにお互いを見知った性器の肉どうしは馴染み、紫乃は激感であられもない嬌声を上げる。

(09:27)

で・は♡ せーの、僕のオマンコ、掘ってえ〜ん♡

(09:41)

はあい♡ 情けないお声でおねだり、とってもお上手でキンタマ十分にイラついてしまったので♡ 二回目ケツマンコ、犯しま、すう♡ す、う〜.....♡ ずぶ、んっ♡ んっ、んん♡ んうう〜っ

♡ しっ、しい♡ 知ってる、うう♡ この、まんっ、こ穴あ♡ っはっ、犯したこと、あるう～、っぐ♡ っへ、へええ……チンポ悦んで、くう、うん♡ みちみち肉サオ膨れて、詰め込んで、えひっ♡ カウパーもぴゅっぴゅっぴゅ、うう～、っふううん♡

☆尻脛をかき混ぜながら、再び身体を倒す紫乃。顔を横に並べ、これまで以上に密着を強めた、「お客様」にとっては拷問のような体勢を愛おしげに語る。

(10:41)

ね、ええ♡ 私の脚で、お客様の、っお、うっ♡ 脚を絡め取って……ぴったり密着、んぐっ♡ ぐちゃぐちゃ、セックスう♡ んう、あっ♡ で～っかいまんまるおっぱい♡ で、っへえ、んん♡ お背中押し潰してぬるぬる汗でくっついてしまう、っく、あっ♡ とろとろオスメスがったあい、交尾、っひい♡ デカケツがメスケツ、っふふ♡ につ♡ 乗っ、かつ、てえ、っへひっ♡ オチンポがオマンコにずぼずぼずぼ♡ きもちいところに当たっ、ちゃ、と、んほっ♡ 一緒にびくうん♡ してしまうなかよしオスとメス、っん♡

☆紫乃はにたりと笑うと、腕を「お客様」の身体にきつく巻きつける。自由を奪われた「お客様」を尻目に、腰を重く打ちつけて悶える声を愉しむ。

(11:49)

でも、こうして、ふふ♡ 気をつけのままの腕を、むちむちと柔らかい私の腕できつく抱きしめてしまいますと、っほ、おお、んっ♡ ……あーあ♡ これでは、もう、っふう♡ 等身大のオナホールに、おらあっ♡ おらあっ、んっ、うう～っ♡ っと、チンポお♡ っぐ、うお♡ 突き刺して、えっ♡ デカすぎキンタマのムラつきどぼどぼ吐き出す腰振りオナニーとなんら、っく、ああ♡ 変わりのない……っ、ふふ、うん♡ 私、それとても、っお、う、っん♡ 得意、なんですよお♡

☆慈悲を求める「お客様」の意思までも手中に収めようと、さらなる要求をつきつける紫乃。囁き声と水音の充満する部屋に、情けない嬌声が混じり始める。

(12:58)

あああ♡ このままですとお客様のマンコっ、穴、っうう♡ 本当にゆるゆる、がばがば♡ んっ、んう、うん♡ 一回チンポすっきりさせてそれで終わり♡ あとは中出しザーメン、っぐ、っふう♡ 詰め、込んでっ……ゴミ箱に、ぽいっ♡ されるだけ、のお、お、っほっ♡ 使い捨てオナホール、うんっ♡ あ～ん♡

(13:35)

ふふ、ふふふっ♡ どうすれば、なんて、お客様はとっくにご存知でしょう、ん、んっ♡ うう、っふーっ♡ 掘って♡ っておねだりしたらオチンポ、おうっ♡ ケツマンコ掘ってくれましたよねえ♡ ほ、らあ、うあんっ♡ ぐちゃ♡ ぐちゃ♡ ってお腹かき混ぜられるのに、っへひっ♡ 合わ、せ、っでっ……捨てないでえ～♡ 僕、オチンポ様と一緒にず～っとずっと、っう♡ らぶらぶおセックスしたいのお♡ 思いをこめて、鳴き声っ♡ ああ～ん♡ 情けなくメス鳴きっ♡ 鳴い、てえ♡ 鳴き、なさ、っひい♡

☆紫乃は底意地の悪い笑みを浮かべ、空とぼけて「お客様」をなじる。突き放すように見せかけながら、淫液に濡れたペニスの先は急所に狙いを定めている。

(14:45)

あら、あら、んんっ♡ あん♡ あん♡ なんて弱々しい、処女みたいな声をお出しになって♡ もおっと鳴きましようねえ、ほら、あう、っん♡ 軽くくちゅくちゅとマンコ肉かき混ぜますと、ん、んっ♡ 尻腔のお腹側にぼこりとかわいらしく盛り上がった……ぜ・ん・り・つ・せ・ん♡ ここを突いてさしあげるとメスもどきのオスにはとってもよく効くのです♡ 声だってきっと我慢できませ、ん……ああん♡ 身をよじられてもムダですよ♡ 四肢から胴体から、押さえ込んでおりますから♡ 安心してケツ穴ぶっ壊れましようね♡

☆「お客様」の前立腺を突きこむと尻穴が激しく収縮し、紫乃はペニスごと硬直していなく。当然、そこに至っても身体の拘束が緩むことはない。

(16:06)

では、息を吸ってえ♡ すうう……せーの♡ ケツの重みを乗せて、ごりっ♡

(16:21)

っ、くお♡ っほ、おお、お……ん、っぐえ♡ っぎひっ♡ んぎっ、ぎぎ♡ こ、こん、にやつ♡ のけぞっちゃ、うううん♡ チン、ポお、っぐあ♡ うう、動、かにやいひっ♡ ケツっ♡ マンコ、おう♡ ケツマンコっ♡ 締ま、りひゅぎ、い、っひっ♡ だっ、らめっ♡ らめ、へえ♡ 亀頭っ♡ 亀頭揉み潰され、っでひっ♡ キンタマ、ひっ♡ ひっくり返、りゅううん♡ 出ちゃ、ダメえ♡ 帰って、お、おお♡ オスイキ汁、っぐうう♡ 帰、っでっ♡ ごぼごぼキンタマに、帰っ、てええ♡

☆だらしなく緩んだ唇を「お客様」の耳元で開き、虚ろな笑みで感動を共有する紫乃。ふわふわした声で話しかけられながらの過酷な尻腔虐待に、「お客様」はもう前後不覚。

(17:19)

……っふう～、ふ、うう……でへえ～っ♡ ひゅ、ひゅごかったです、んっ、ねえ♡ 頭真っ白になって、あ、っぐっ♡ 聞こえていませんでしたけれど♡ きっと私も、お客様も♡ んおーっ♡ って獣じみた交尾声、っふふ♡ 出してしまっ、きも、ちっ♡ ほら、ほら次、いい♡ 深呼吸っ、すう～……ふ、うっ♡ だえ♡ ケツたぶごとぎゅう♡ した肛門穴あ、ふわ～っ♡ っと緩、んで♡ ふふ、っふふ♡ チンポ少し動けるようになりましたからあ♡ 腰、っひ♡ 少し引いて、もいっかい～……ご、りいっ♡

(18:32)

くっ♡ くく、っぐっ♡ ひ、い～っ♡ っひひ～っ♡ 前立腺、んん♡ かちかち亀頭さん、っでえ♡ ごりっ♡ っくほ、っおお♡ こひゅ、ると、お、んぐっ♡ 股間のお肉ぜえんぶりびり、っひっ♡ 痙攣、ひて、えへ♡ お腹の下のほうが意味もわからず膨らんだり、へっこんだり♡ ん、っふふう♡

私もいっしょ、ですの、お、おほっ♡ 腕も足も自由に動かないのに、んっ♡ ごりっ♡ ごり、っひひい♡ 前立腺ぺたんこに、しちゃ、んんっ♡ チンポっ♡ パコ腰だけ動、っひっ、てえ♡ ぱっこ♡ ぱこ、おっ♡

☆発端は明らかに自分なのに、紫乃は「お客様」が原因かのような口ぶり。最初からそうになっていたと妄言を弄し、抽送と耳舐めで有無を言わせず呑み込ませていく。

(19:29)

ごっ、りい、んへ、へええっ♡ な〜んでっ♡ ん、んう、うん♡ なんでこんな、チンポで突かれるときもち、っ、いひっ♡ 場所にい♡ チンポで、んっ、ん、っぐ♡ 突かれるときもちいものをくっつけていらっしやるのかしらあ、あ、っは、はあ♡ んうう.....メ〜、スう♡ メスになりたいから♡ メスで生まれてくるよりも、んお、っくおおん♡ わざわざチンポでずこずこ犯されて、っへひっ♡ オスからメスにされちゃうほうが気持ちいいから♡ メスになっちゃ、うんっ♡ マンコくっつけて生まれてきたの、っほ、ほおお♡

(20:22)

本当かな、なんて考えちゃ、んちゅ、っちゅぶ、るるう♡ ダメ♡ 悪い考えは耳から、っちゅ、うう、っふあ♡ 吸い取って、っぐ♡ しまってえ、っぐちゅ、ぶちゅ♡ お耳しゃぶしゃぶで、んお、っほ、おお♡ そう、だよ、お、おんっ♡ メス、う〜っ♡ 僕メスなのお、ちゅぶる、くぶっ♡ しかもレイプだいちゅきな変態メス、で、っへえ♡ オマンコの弱点、んんっ♡ 前立腺♡ あむ、んぶ、っちゅるる♡ ばきばきチンポでごり、ごりっひい♡ 削られるのだいちゅきなマゾメスなんだよお♡

☆もはや恥じる心自体を喪失した「お客様」を四方八方から責め、悦に浸る紫乃。ペニスの先から絶え間なく先汁を噴き、蕩けるような感触に白目をむきそうになる。

(21:13)

んお、っうう♡ 反、対の、お耳もお.....むちゅ、るる♡ んあ、あっ♡ よい、っひっ♡ ですねえ♡ ん、っふう〜っ♡ きもちいお声が聞こえてきます、わ、あん♡ んむ、っくちゅ、ちゅばっ♡ おほ♡ おほほ♡ なあって口を尖らせた、あう、っふう♡ 発情メス声♡ くっさいキンタマ汁、っぐっ♡ ぶりゅぶりゅ♡ 吐き出すことしか考えていないチンポ女に、あむちゅ、んぶちゅ、っずるう♡ 身体ごと抱かれ、ってへええ♡ ケツマンコスイッチで肛門締めるメスマゾさ、んっ、にっ♡ とってもお似合い♡

☆指先に触れる「お客様」の乳首の感触に、新しいおもちゃを見つけた、と紫乃は口角を引き上げる。最初からトップスピードで乳首を弾き、転がす。

(22:28)

.....あ♡ あああ♡ メスう♡ またお客様のメスの部分、ん、っぐ♡ 見つけてしまいました、あ、あん♡ 抱きしめた腕の、手、のお♡ 指先、っふふう.....平坦なおっぱいの、左と右にひとおっずっ、う、っふーっ♡ 周りをくるくる、なぞっ、てへえ♡ さしあげると♡ やあん♡ いやあん♡ いじいじしてよお♡ お指でこりこりいじめてよお♡ なあってぷっくり腫れた、メス乳首♡

(23:16)

ん、ふふっ♡ 乳首おねだりするみたい、にい、んぐ、っふう♡ 切ない吐息漏らして、ほら♡ 人差し指の爪にお客様のお乳首、っひっ、うぐ♡ 乗っ、けて、っへええ.....あら♡ 乳首触られて、嬉しい嬉しい♡ ってお顔、っほ、お、おお♡ んえっ、へへ〜っ♡ ぷにぷにしてもらえるのかなあ♡ ころころしてもらえるのかな〜.....残念、です♡ 指、先、いひ、ひっ♡ 上下にぴちぴちぴちぴち♡ ゆっくり乳首育てるらぶらぶおててじゃなく、っで、んんっ♡ さっさと乳首アクメさせたい高速乳首ぺちぺち、い、っひ♡

☆「お客様」の身体に灯り始めた新奇な快感の兆しを察知し、肉穴の中で屹立を跳ね回らせる紫乃。小刻みで間断ない動きで、並べ立てる言葉で、「お客様」を追いつめる。

(24:14)

おや、おや、あ、んぐっ♡ 乳首ぴちぴち弾、かれ、っへ、えひっ♡ おみ、みい、んちゅぶ、んぶっ、ちゅるる♡ 吸われ、つくう♡ なんで♡ なんでおケツ♡ メス尻マンコのメス前立腺、んん、ちゅむ、っばっ♡ じんじん疼いて、へえええ♡ そっ、そう、っん♡ 乳首といっしょ♡ お耳といっ、しょ、っほ、おう♡ んずっ、ぷちゅ、れる♡ 擦って♡ 擦って♡ ってもこもお勃起した前立腺、んんっ.....ぶっとい裏筋押し当てて、小刻みに、ん、うつ、ごりごりごりごり、っひ、ひいいん♡

(25:10)

あ♡ あ♡ あ♡ おかしい♡ おちんちんおかしいよお♡ つく、ん、ううん♡ ケツ掘られてふにや〜♡ してる、んむちゅ、つぶっ、うあ♡ のに、尿道ばっかりじんわり熱くな、っでへっ.....おしっこ♡ おしっこ出てしまいそう、ですか、っあっ♡ いい、ですよ、お、うつ♡ あむ、くぷ、っちゅう♡ っあ〜っ♡ ふー♡ ふー♡ って間抜け面晒して、お鼻とお口から、っぐぐ♡ 息吐いて、身体の力をお抜きになって、ん、んん、う、っふう♡

☆紫乃は耳介をなぞるような熱っぽい声で、「お客様」の後戻りできない絶頂を煽る。もはや脅迫に近い粘着的な口調が、「お客様」の脳を腐らせていく。

(26:05)

はあ〜♡ っは、あ〜っ♡ 昇ってきました、ねえ♡ ふ、っふふ♡ それはお客様の精液♡ のお、成れの果て♡ ぴちゅ、ぐちゅる、つぶ♡ なあんだ♡ マンコほじられて、メスになっ、てえ、うんっ♡ こんなに気持ちよくなれちゃうなら、もういらない♡ せっせと作った赤ちゃんミルク♡ ん、んんっ♡ たっぷり溜まった前立腺、ぐり、ぐり、っひ、ひいっ♡ 押し潰されて、チンポも、もうっ.....メス♡ オマンコきもち〜♡ ってなる、とお♡ 薄いせえき漏らしてしまうだけの、役立たず、ふにやチンポ、っほっ♡

☆自らの嬌声さえも忘れ、紫乃は「お客様」のペニスに雌に墮とすことだけで脳裏を満たす。うわごとめいた声は色もなく淡々と、「お客様」の意識を上書きする。

(27:14)

んぷちゅ、ぴちゅる、っずず♡ メス射精♡ びゅうう〜っ♡ っと力強くマンコ穴に飛び出すオスの射精とは正反対の、う、っん♡ 亀頭の丸みに沿って、たら〜っ♡ は、あん♡ シーツにすぐに吸われちゃうよわよわお漏らし♡ んお、つくほっ、んむ、つぶちゅうう……もう戻れない♡ ケツマンコ掘られてメス射精なんてしてしまったら、もう♡ でも、おっ♡ きもちいからそれでいいの♡ メスだいちゅきな♡ オチンポいない♡ キンタマいない♡ 精子いない♡ 精液いない♡

☆紫乃は威圧的な声色で、「お客様」を従わせる。雌になった雄と、雄になった雌の原始的な交尾の破局が、目のくらむ激感とともに近づいている。

(28:14)

んぐ、ひひひっ♡ ねえ、えゝへっ♡ チンポとオマンコ、おゝ、うっ♡ 一緒にぶっ壊してしまっているのですね♡ 壊れましょ、う、うゝ、ねえっ♡ んふ、ふふっ♡ すっかりメス気分で私の極太お勃起に絡みつい、っでへっ♡ くる、マンコひだ押し潰して♡ ペしゃんこになった前立腺すり潰してっ♡ も、っほ、おゝおゝ♡ メス乳首潰してお耳吸い潰して、壊れてダメになって……それで、特濃オス種ミルクどぼどぼぶりぶり、っぎぎっ♡ 詰め込まれてえ……おしまいっ♡

☆紫乃は外面も気品も投げ捨てた野太い嬌声を上げ、「お客様」の耳にかぶりついて腰を振りたくる。太くなりきったペニスは、紫乃にも「お客様」にも絶頂をもたらす。

(29:26)

おゝっ♡ おゝんっ♡ おゝう、んっ♡ っぐ、ちゅる、ちゅちゅう♡ おしまいおしまい、っひいゝ♡ おゝお、チンポっ♡ でっ、でっ、出りゅ♡ しゃせ、ひい、いゝい〜っ♡ んぐちゅ、つぶっ♡ ほらお客様、もお♡ 終わっちゃう♡ 僕、中に出されたら終わっちゃうんだ♡ ってっ♡ それでもマンコ肉うねうね波立たせ、っでひっ♡ イぐ、っひぐ♡ キンタマ袋縮みすぎ、っぎ、ぎぎっ♡ チンポ汁大量に上がり、すぎ、はあ、むちゅ、んんっ♡ ひ、ぐう……んっ、ちゅ、ちゅうう〜っ♡

☆聞くに堪えないぐもった声を「お客様」の耳元で漏らし、絶頂する紫乃。奇妙なことに身体は脱力し、それでいて股間は強張って濁精を送り込んでいる。

(30:17)

んぶぐっ♡ ぐぶ、ちゅちゅう♡ っぶあ♡ んむっ、んちゅる、っぐちゅ、ちゅ、っん、んん、んう、うゝ〜っ♡ んぐおっ♡

(30:40)

んゝ♡ んあ、あゝっ♡ ほお、ら♡ お客様、あゝおっ♡ 私、お客様を抱きしめたまま、だらんと力を抜いて覆いかぶさっている、のに、っひっ♡ チンポばかりが青筋立てて♡ ぶりゅ♡ ぼびゅ♡ 生ハメオスイキ、っほお、おゝお♡ 睾丸汁をたあっぷり注ぎ込んでおりますけれど♡ お客様は、んあゝ♡ いかがかしら……っふっ♡ 言うまでもなく、分厚いケツ肉ぎゅう♡ と盛り上がらせて♡ ん、っぐぐ♡ オス終了オチンポも、とびゅ、とびゅ、うゝ、っふう♡ メスイキ、気持ちよろしゅうございますね……♡

☆紫乃は初めて「お客様」に挨拶したときの柔和な笑みを浮かべる。すっかり凶暴な調子は鳴りを潜め、穏やかに、それでいて不穏な言葉を口にする。

(32:37)

ですけど♡ これで、ん、っぐっ♡ 申し訳ございません♡ どうやら止まりそうもないので、不躰ながらお射精しっぱなしのままお話をさせていただきますね♡ 処女から二度、ケツマンコに熱い精を受け止めただけでは、ん、うゝ♡ とてもメスには足りなくて♡ 身体じゅう精液のにおいを漂わせるようになるまで♡ 肛門が縦に割れて、本物マンコそっくりになってしまうまで♡ チンポのことを考えただけで腸液だらだら漏らしてケツ穴濡れてしまうようになるまで.....何度も何度も、セックスして、膣内射精されて♡

☆言葉を交わすうち、紫乃のペニスが再三膨らみだす。たっぷりと間を取り、発された冷徹な言葉に「お客様」はぞくりと身を波打たせ、また淫楽に吞まれていくのだった。

(33:48)

だから.....時間無制限、なのですわ♡ お客様が泣き喚こうが、そんな気力もなくなって、ただ犯されるだけになってしまおうが♡ 私にオチンポが生えていて、お客様にオマンコ穴が空いている限りずっと、ずっと.....ふふ、とりあえず、種汁送り出すのにひと段落してだるん♡ とだらしなく緩んだキンタマ♡ ふたたび青臭い濃厚精子汁がごぼりごぼり♡ と溜まるまで、くちゅくちゅオマンコかき混ぜるゆるゆるチンポハメに励むといたしましょうか♡ ね.....メスマゾ野郎、さ・ま♡